

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯(一)

ノ状況ニ悪影響ヲ与フルコトヲ防止スルハ予等当面ノ責務ナリト感ズ予ハ此ノ意味ニ於テ原内閣ノ此ノ會議ニ對シ樹立シタル主要ナル方針ニ付加除變更ナキヲ期待シ且ツ時宜ニ依リ予ニ於テ此ノ事ヲ声明セントスルモノ切ナルモノアリ故ニ内閣組織ニ関スル状況及予ノ敍上ノ意見ニ對スル貴官ノ高見至急返電アリタシ

會議ハ明後十二日より開会セラルヘシ(十日夜)

175 10年11月12日(発)

内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

新首相ノ會議方針不變更聲明方訓令ノ件

第六三二号

加藤全權へ

一八〇

(一七四文書)
貴電會議第九号ニ関シ

凶変以来ノ政局ノ推移ハ形勢混雜シ見据ヘ付キ難キモノアリタルニヨリ逐時閣下等ニ電報スルヲ得サリシモ今十二日ニ至リ元老ハ首相トシテ高橋子ヲ推薦スル事ニ決定シ高橋子ハ政友会側ニ於テ異論ナクハ之ヲ受諾スルノ意向ニテ午後ヨリ政友会内ニテ詮議中ナリ其結果ハ断定シ難キモ格別ノ障害ナクハ程ナク大命ヲ拝スル事ト察セラル就テハ任命ノ上ハ直ニ電報スヘキニ付其節ハ閣下御意見ノ通り會議ニ對スル方針ノ變更ナキ事ヲ適宜貴方ニ於テ声明セラレ差支ナシ当方ニ於テモ適宜ノ方法ニヨリ新首相ヨリ同趣旨ノ声明ヲナス筈ナリ

(二) 政府訓令ノ確定

176 10年10月13日

内田外務大臣ヨリ
原内閣總理大臣宛

ワシントン會議日本全權委員ニ對スル訓令

付記一 ワシントン會議準備打合會記事

二 訓令ノ形式手続

三 十一月一日堀内外務省欧米局第二課長記
陸軍兵力制限問題ニ就テ

華盛頓會議帝國全權委員ニ對スル訓令ニ關スル件

大正十年十月十三日付

原總理大臣

内田大臣

華盛頓會議帝國全權委員ニ對スル訓令中太平洋問題支那問題及西比利亞問題ニ關スル分別紙ノ通閣議決定相成度此段及請議候也

(別紙一)

大正十年十月十二日外交調査會決定

華盛頓會議帝國全權委員ニ對スル訓令

第一 一般方針

一 世界恒久平和ノ確立並人類福祉ノ増進ハ帝國外交ノ要諦ニシテ今次ノ會議ニ對シテモ帝國政府ハ此精神ニ基キ

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯(二)

欣然參加スルニ至リタル次第ナルヲ以テ閣下等ハ終始此

意ヲ体シ會議ノ成果ヲ挙クルコトヲ期セラルヘシ

二 軍備制限問題並太平洋及極東問題ハ共ニ帝國利害ノ關スル所最モ緊切重大ナルカ故ニ閣下等ハ會議ノ大勢ヲシテ帝國ノ利益ニ合致セシムルコトヲ期セラルヘシ殊ニ帝國ノ國是タル平和政策ニ對シテハ從來往々誤解謬想ナキニ非サルヲ以テ此機ニ於テ能ク帝國ノ真意ヲ闡明シ國際間ノ信望ヲ増進スルニ務メラルヘシ
若シ夫レ米國トノ親善円満ナル關係ヲ保持スルコトハ帝國ノ特ニ重キヲ置ク所ナルヲ以テ本會議ニ於テモ右關係ヲ益々鞏固ナラシムルノ結果ヲ齎スコトニ力ヲ致サルヘシ

三 太平洋及極東問題討議ノ目的ハ軍備制限問題ニ關連シ將來ノ為一般ノ原則及政策ニ付列國共通ノ諒解ヲ遂クルニアルヘキコトヲ顧念シ濫ニ此本旨ヲ離脱シテ無益ノ紛糾ヲ招クカ如キコトナカラシムルハ會議ノ目的達成上最モ緊要ナリ閣下等常ニ意ヲ玆ニ用ヒ會議ノ大勢ヲ右ノ主

一八一

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

旨ニ合致セシムルニ努メラルヘシ

四 太平洋及極東問題ノ討議ニ当リ原則及政策ノ樹立並適用上列国一般ニ利害関係アル諸問題ニ就キ共通ノ諒解ヲ遂クル為之ヲ論議スルコトハ帝国ニ於テ異議ナキ所ナリ從テ帝国ニ取り重要ノ関係アル既成事実若クハ特定国間限りノ問題ト雖モ右ノ目的ヲ以テ之ヲ論議スルコトハ差支ナキモ進テ之ヲ審査裁決スルコトハ反对セラルヘク又独リ帝国過去ノ施政政策ノミヲ批判セムトスルカ如キ形勢ヲ生セシメサル様臨機適当ノ措置ヲ執ラルヘシ

五 今回會議ノ主眼ハ軍備制限ニ在リテ太平洋及極東問題ハ之ニ関連シテ討議セラルヘキモノナルニ顧ミ會議ニ於テハ先ツ軍備制限問題ヲ討議シ次テ太平洋及極東問題ノ討議ニ移ルコトヲ主張セラルヘシ尤モ會議ノ情勢上右主張ノ貫徹困難ナル場合ニハ少クトモ両問題ヲ併行シテ討議スルコトニ決定ヲ見ル様措置セラレタク若シ又之カ貫徹ノ見込ナキトキハ軍備制限ヲ主眼トスルノ趣旨ヲ失ハサル限り太平洋及極東問題ヲ先議スルコトニ同意セラレ差支ナシ

六 國際争因ハ独リ太平洋及極東ニ限ラス却テ他ノ方面ニ

モ猶存続セシムルモ妨ナシ但シ英國ニシテ右協定又ハ協商ヲ以テ同盟条約ニ代ヘムコトヲ欲スルニ於テハ之ニ同意セラレ差支ナシ又軍備制限協定商議ノ前提トシテ他国一致シテ日英同盟廃棄ヲ主張スルニ於テハ右同盟条約中該協定ノ障礙トナルヘキ条項ハ協定各国ニ対シ適用ナキコトヲ宣言セラレ差支ナシ

一〇 帝國政府ハ國際連盟ノ一員トシテ其存立ヲ尊重スヘキコト勿論ナリト雖モ今回會議ノ結果或ハ連盟ノ事業ト多少ノ逕庭ヲ来シ若クハ連盟規約改正ノ必要ヲ生スルカ如キコトアル場合ニ於テハ英仏伊三国ト協調ヲ経テ其討議ニ参加セラレタシ又米國ヲシテ國際連盟ニ加入セシムルノ勸告提議ニ対シテハ同シク其議ニ参加セラレタシ

一一 嚮ニ米國大統領ノ提唱シタル國際連合ハ其意義未タ明確ナラサルモノアルヲ以テ之ニ対シ予メ帝國政府ノ態度ヲ決定スル能ハサルニ付會議中同問題討議セラルル場合ニハ詳細案ヲ具シテ請訓セラルヘシ

一二 帝國今日ノ經濟狀態ニ鑑ミ人口問題及原料問題ハ國民生活ノ安定福祉ヲ確保スル為最モ緊要ナルヲ以テ閣下等ハ今回ノ會議ニ於テ常ニ此点ヲ顧念シ機ニ応シ帝國ノ

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

一八二

多ク存在スルノ事実ハ之ヲ認メサルヘカラサルモ先ツ一局面ノ争因ヲ除去スルコトモ亦軍備制限ヲ容易ナラシメ世界恒久平和ノ確立ニ資スル所以ナルヘキニ顧ミ帝國政府ハ軍備制限問題ト関連シ日本ト直接重要ノ関係ヲ有スル太平洋及極東問題ノ討議ニ参加スルモノナルコトヲ適当ノ機會ニ於テ言明シ置カレタシ

七 會議中適當ノ時期ニ於テ太平洋及極東ニ於ケル恒久平和ノ確立ヲ主眼トスル日英米三国協商案ヲ提唱スルニ便ナル形勢ヲ誘致スルニ努メラルヘシ

八 軍備制限問題ノ討議ニ当リ同盟当事国ノ軍備ニ対シテハ特別ノ考量ヲ加フルノ要アリトノ議起ルコトナキヲ保シ難キ処斯ノ如キ場合ニハ先ツ以テ英國側ト隔意ナキ協議ヲ遂ケ可成共同ノ態度ニ出ツル様措置セラレタク尤モ會議ノ情勢上必要アルニ於テハ軍備制限協定国間ニハ其何レノ国ヲモ目標トスル同盟関係ナキ次第ヲ認ムルコトニ贊同セラレ差支ナシ

九 軍備制限協定又ハ日英米三国協商ト関連シテ日英同盟存廢ノ問題考量セラルルニ於テハ帝國ハ日英同盟条約ハ前記協定又ハ協商ニ依リテ自ラ變更ヲ来スコトアルヘキ

地歩ヲ弁明シ又ハ我提案説明ノ資料トシテ列国ニ啓示シ充分之ヲ諒解セシムル様努メラレタシ

一三 帝國ハ今回ノ會議ニ於テ他ノ参列国ニ対シ概ネ中正ノ態度ヲ執ルヲ得策トスヘキモ日英同盟ノ關係並極東ニ於ケル兩國ノ地位ニ顧ミ英國トノ協調ヲ保ツコトニ留意セラルヘシ

一四 軍備制限問題並太平洋支那西比利亞ノ各問題ニ関シテハ別添ノ要旨ニ遵ヒ臨機適切ノ措置ヲ執ラレタク尤モ帝國ノ利害ニ重大ナル影響アルヘキ問題ニ就テハ事緊急ヲ要スル場合ノ外予メ請訓セラルヘシ

第二 軍備制限問題

帝國ハ常ニ自衛ニ必要ナル最少限度ノ兵力ヲ保有セムコトヲ目的トシテ之ヲ建設維持シ来リタルカ列強軍備ノ規模漸次拡大スルニ伴ヒ帝國モ亦勢ヒ是ニ対応セサルヘカラサルニ至リ而モ容易ニ所期兵力ノ程度ニ到達スルヲ得サルノ現況ナリ然ルニ世界大戰ノ結果國際協調ノ精神勃興シ軍備制限ノ急務ナルコト汎ク唱道セラレ國際連盟ニ於テ右制限ノ事業ニ着手シタルモ強大国中之ニ加盟セサルモノアル為遺憾乍ラ未タ其實現ノ域ニ達スルヲ得サリシカ今回米國大統領

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

領ノ招請ニ依リ五大国間ニ軍備制限ニ関スル協議ヲ開催スルコトナリタルハ世界平和ノ為帝國政府ノ大ニ歡迎スル所ナリ而シテ我軍備ニ密接ナル關係ヲ有スル露支兩國ノ状態ハ未タ安定ヲ見ルニ至ラスト雖モ今次會議ノ結果少クトモ東洋ノ形勢ヲ緩和シ我國国防ニ良好ナル影響ヲ齎スヘキヲ以テ閣下等ハ公正真摯ナル態度ヲ以テ討議ニ臨ミ帝國国防ノ安固ヲ確保スルト同時ニ軍備制限ノ実現ヲ期セラルヘク各個ノ問題ニ関シテハ左記ノ方針ニ遵ヒ適宜措置相成度シ

陸軍ノ部

一 帝國陸軍ノ軍備ハ帝國自ラ決スルモノニシテ敢テ他國ノ強制ヲ受クヘキモノニアラス是レ国土ノ地理の關係及国情ヨリ自ラ自衛ノ為必要ナル最少限ノ陸軍兵力ヲ決定シ得ルモノナレハナリ故ニ關係列國ト共ニ軍備ヲ制限スルニ際シテモ如上ノ根本義ハ毫モ変化スル所ナシ然レトモ是等兵力決定ニ要スル諸元ノ多クハ無形抽象的ノモノナルヲ以テ其觀察ノ異ルニ從ヒ齎ス所ノ結果モ亦異ルモノアルハ已ムヲ得サル所ナリ依テ陸軍軍備ノ制限ヲ議スルニ際シテハ此ノ觀察ノ一致点

クモ現状維持ノ程度ニ協定ヲ成立スルコトニ努メラレタシ

六 帝國徵兵制度ハ各國ノ態度如何ニ拘ラス帝國ノ国情上之ヲ撤廃スルコト能ハス

七 軍人ノ服役教育軍ノ編成等ニ関シテハ全然各國ノ自由ニ委スルヲ要ス

八 兵器彈藥及軍用器材ノ平時貯藏數量ヲ制限セントスルノ提案ニハ賛成セス

九 民業ニ依ル兵器彈藥及軍用器材ノ製造ハ帝國ニ於テハ何等國際平和ニ惡影響ヲ及ホスノ虞ナシ從テ現状ニ對シ變更ヲ加ヘ又ハ制限ヲ設クルノ必要ヲ認メス

一〇 毒瓦斯ノ使用ニ関シテハ人道上ノ見地ヨリ之ニ反對ス但シ會議ノ大勢之ヲ許ササル場合ニハ適宜ノ措置ヲ執ラレタシ

一一 無防禦ノ住民地ニ對スル空中爆撃ニハ反對ヲ主張ス

一二 軍備制限実行ノ為メ國際監督機關設置ノ提案ニ對シテハ之レ重大ナル主權侵害ニシテ且初ヨリ協定各國ノ誠意ヲ否認スルモノナルヲ以テ之ニ反對ス

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

ヲ求ムルニ努メ我カ誠意ノアル所ヲ披瀝シ平和愛好ノ精神ノ下ニ軍備制限ノ実ヲ挙ケンコトヲ期セラルヘシ

二 帝國陸軍ハ帝國国内ノ地理的狀態国情及東洋ノ形勢ニ鑑ミ曩ニ平時兵力四十万ヲ以テ国防上必要ナル陸軍兵力トシ之カ充實ニ努メツツアリシカ今次國際會議ノ趣旨ヲ尊重シ參加列國ノ互讓ノ精神ト國際信義トニ信賴シ得ルニ於テハ敢テ此根本計畫ニ依ル兵力ヲ固執スルコトナク現在実行中ノ兵力即チ約三十二万トシ四囲ノ情況之ヲ要スレハ尚制減スルヲ辞セス但シ此場合ニハ請訓スルヲ要ス

三 制限協定ノ期間ハ國際連盟規約第八條ノ規定ニ準シ一期間ヲ十年トシ本協定ハ可成速ニ各國同時ニ之ヲ實施セムコトヲ希望ス

四 航空兵力ノ制限ハ徹底ヲ期シ難キモノナリト認ムルモ會議ノ大勢上制限ヲ可ナリトセハ之ニ同意セラレ差支ナシ然レトモ帝國航空兵力ノ現勢ハ列強ニ比シ甚タシキ逕庭アルコトヲ特ニ考慮スルヲ要ス

五 太平洋諸島防備ノ撤廃若ハ制限ニ関シテハ平和維持上ノ見地ヨリ適當ノ機會ニ於テ帝國ヨリ之ヲ提議シ少

一三 帝國陸軍軍備ノ規模及將來ノ企画ニ関スル報道交換ニハ同意スルモ右報道ハ帝國議會ニ於テ發表スルノ程度ニ準スルヲ要ス

一四 陸軍兵力ノ制限ニ際シ殖民地兵力ヲ兵力制限ノ範圍外ニ置クコトニハ反對ス

(乙) 海軍ノ部

一 夫レ一國ノ保有スヘキ軍備ノ程度ハ其ノ國自カラ決定スヘキモノニシテ敢テ他國ノ強制ヲ受クヘキモノニ非サルノミナラス兵術上ノ見地ヨリスレハ凡ソ各強大國ノ軍備ハ均勢ナラサルヘカラスト雖今回ノ會議ニ於テ強テ此ノ見解ニノミ執着スルトキハ會議ヲ不成功ニ終ラシメ將來益列國間ノ軍備競争ヲ激甚ナラシムルノ弊害ヲ釀成スルニ至ルヘキヲ以テ各國ハ須ク相互ニ其ノ獨立主權ヲ尊重スルト同時ニ善意ノ疏通了解ト平和愛好ノ崇高ナル念トヲ以テ和衷協同シテ軍備制限ヲ實現セサルヘカラサルモノト認ム故ニ閣下等ハ此ノ精神ヲ体シ充分ニ努力アリ度シ

二 帝國ノ海軍兵力ニ関シテハ地理的地位及国情ニ鑑ミ強テ他ノ強大國ト均勢ヲ主張セントスルモノニアラス

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (一)

ト雖モ帝国ノ安全ト世界平和ノ維持トノ為メ少クトモ東洋ノ海面ニ於テ彼等ノ運用シ得ヘキ実勢力ト略均勢ヲ保持スルニ足ルモノナラサルヘカラス之カ為メ主力艦二十四隻ヲ基幹トスル兵力ノ必要ヲ認メテ勅裁ヲ經タル後既ニ帝國議會ニ於テ海軍大臣ノ声明シタル所アリ然レ共今回ノ制限協定ニ際シ帝国ノ保有スヘキ海軍兵力トシテハ大体ニ於テ予算ノ協賛ヲ經テ建造ニ着手中ナルハ八艦際ヲ標準トスルモ米國又ハ英國ト敍上ノ趣旨ニ適合スル割合ヲ維持シ且太平洋ニ於ケル形勢ニ将来大ナル變化ヲ見ルコトナキ限り現ニ実行中ノ本計畫ヲ固執スルコトナク情況ニ応シ之ヲ低減スルヲ辞セス

三 海軍軍備制限ノ範圍ニ関スル帝国ノ主張ハ嘗ニ将来ノ建艦ニ関シテ協定スルニ止マラス既定計畫ニ属スル未完成艦ヲモ併セテ制限範圍ニ包含セシムルノ主義ヲ執リ既成ノ兵力ニ関シテハ之ヲ制限ノ範圍外ニ置クコトトス

四 軍備制限ノ方式ニ関シテハ制限ノ有効確實ヲ期スル為メ左ノ提案ヲ為シテ之ヲ主張ス但シ會議ノ趨勢ニ依

逕庭アルコトヲ特ニ考慮スルヲ要ス

八 太平洋諸島防備ノ撤廢若ハ制限ニ関シテハ平和維持上ノ見地ヨリ適當ノ機會ニ於テ帝國ヨリ之ヲ提議シ少クモ現状維持ノ程度ニ協定ヲ成立スルコトニ努メラレ度シ

九 潜水艦ハ帝國国防上必須ノモノタルヲ以テ之カ廃止ニ反対ス

一〇 軍艦ノ武装制限ニ対シテハ主義トシテ同意スルモ各國ノ工業能率其ノ他ノ事情ニ応シ若干斟酌ノ余地ヲ有スルコトニ努メラレ度シ

一一 帝國ノ徵兵制度ハ各國ノ態度如何ニ拘ハラス帝國ノ國情上之ヲ撤廢スルコト能ハス

一二 軍人ノ服役教育軍ノ編制等ニ関シテハ全然各國ノ自由ニ委スルヲ要ス

一三 兵器彈藥及軍用器材ノ平時貯藏數量ヲ制限セントスルノ提案ニハ賛成セス

一四 民業ニ依ル兵器彈藥及軍用器材ノ製造ハ帝國ニ於テハ何等國際平和ニ惡影響ヲ及ホスノ虞ナシ從テ現状ニ対シ變更ヲ加ヘ又ハ制限ヲ設クルノ必要ヲ認メス

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

リテハ必スシモ之ヲ固執スルコトナク我ニ不利ナラサル限り他案ニ交譲同意スルコトアルヘシ

(イ) 主力艦ノ數及各艦排水量ノ制限

(ロ) 主力艦以外ノ巡洋艦驅逐艦潜水艦及航空母艦ノ總計噸數制限

右ノ二項ヲ併セ行フコト

五 制限協定ノ期間ハ國際連盟規約第八条ノ規定ニ準シ一期間ヲ十年トシ本協定ハ可成速ニ各國同時ニ之ヲ実施センコトヲ希望ス

六 帝國海軍兵力制限ノ基準タルヘキ英米ノ海軍力ニ関シテハ該兩國モ亦進ンテ最低限度迄制限スルヲ快諾センコトヲ帝國ニ於テ切望スル所ナリ而シテ該兩國間ノ兵力比ニ付テハ我ニ大ナル不利ヲ来ササル限り主トシテ兩國間ノ協定ニ俟チ我ノ深ク關スル所ニ非サレ共其ノ協定困難ニ陥レル場合ニ於テハ要スレハ適宜之カ調停ニ努メラレ度シ

七 航空兵力ノ制限ハ徹底ヲ期シ難キモノナリト認ムルモ會議ノ大勢上制限ヲ可ナリトセハ之ニ同意セラレ差支ナシ然レ共帝國航空兵力ノ現勢ハ列強ニ比シ甚シキ

一五 毒瓦斯ノ使用ニ関シテハ人道上ノ見地ヨリ之ニ反対ス但シ會議ノ大勢之ヲ許ササル場合ニハ適宜ノ処置ヲ執ラレ度シ

一六 無防禦ノ住民地ニ対スル空中爆撃ニハ反対ヲ主張ス

一七 軍備制限実行ノ為メ國際監督機關設置ノ提案ニ対シテハ之レ重大ナル主權侵害ニシテ且ツ初ヨリ協定各國ノ誠意ヲ否認スルモノナルヲ以テ之ニ反対ス

一八 帝國海軍軍備ノ規模及将来ノ企画等ニ関スル報道交換ニハ同意スルモ右報道ハ帝國議會ニ於テ發表スルノ程度ニ準スルヲ要ス

第三 太平洋問題

俾會議ノ情勢ニ依リ主張スヘキ事項

太平洋及極東方面ニ於ケル一般平和ヲ確保セムカ為ニハ其全局ニ亘リ共通ノ諒解ヲ遂クルノ要アルコト勿論ナルカ故ニ帝國政府ハ此見地ヨリスレハ太平洋ノ意義及範圍ヲ可成広汎ニ解シ左記ノ諸問題ニ付一般ノ主義ノ樹立ヲ提唱セサルヲ得スト雖此点ニ付テハ十月十三日幣原大使(一六〇文書)宛第五〇七号訓電中記載ノ事由ニ依リ議題トシテ提出方

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

ヲ見合ハセタルモ會議ノ情勢上此等諸問題ノ討議ヲナサルヲ得サル場合ヲ生シタルトキハ先ツ以テ太平洋方面トハ太平洋ニ面スル各国ノ本土及各国ノ太平洋ニ位スル所領全部ヲ包括スルノ趣旨ナルコトヲ主張セラレ若シ會議ノ情勢上斯ル諒解ノ成立困難ナルトキハ太平洋ニ位スル各国所領(自治領殖民地島嶼等)ノ問題トナシ又已ムヲ得サル場合ニハ自治領ヲ除キ単ニ各国ノ殖民地及島嶼ニノミ關スル問題トナスコトニ同意セラレ差支ナシ又帝國政府カ右諸問題ヲ提議スル所以ノモノハ列国共通ノ諒解ニ依リ一般的主義ヲ確立スルニアリテ此際直ニ個々ノ實際問題ヲ解決セムトスル趣旨ニアラサルヲ以テ此点ハ列国ヲシテ充分理解セシメラレ度シ而シテ門戸開放機會均等問題ノ討議ニ當リテハ會議ノ情勢ニ由リ天然資源問題及外国人待遇問題ニモ亘リテ論議シ度キ意嚮ナルカ是等問題ハ帝國ノ存立發展上至重ノ關係ヲ有シ而カモ正義人道ノ觀念ニ合致スルモノニシテ今回ノ會議ニ於テ帝國ノ地歩ヲ擁護シ其主張ヲ徹底セシムヘキ有力ナル利器ナリト雖モ一面之ヲ以テ支那及西比利亞問題ノ討議ヲ牽制スルノ意ヲモ寓スル次第ナルヲ以テ帝國ノ立場ニ對シ列国

ノ諒解ヲ得テ將來解決ノ素地ヲ作り得ルニ於テハ右等問題ニ深入スルヲ避ケ以テ他ノ問題ノ解決ヲ容易ナラシムル等臨機妥當ノ斟酌ヲ加フルノ必要生スヘキニ付其辺御含置アリタシ

一 列国領土ノ相互尊重

太平洋方面ニ於ケル列国ノ領土ヲ相互ニ尊重スルノ主義ヲ認ムルコト

二 門戸開放―商業及産業上―機會均等

太平洋方面ニ於ケル列国ノ領土ニ商業及産業上ノ機會均等主義ヲ適用スルコト

(乙) 討議ニ異存ナキ事項

太平洋ニ於ケル委任統治問題若シ議ニ上ルコトアル場合ニハ左ノ趣旨ヲ体シテ然ルヘク措置セラレタシ

一 赤道以北旧独領諸島全部ニ對スル我委任統治ハ巴里講和會議及國際連盟理事会ノ決議ニ基ク確定ノ事實ナルカ故ニ右統治ニ對スル主体ノ變更ハ之ヲ承諾スルコトヲ得ス

二 「ヤップ」問題ニ關シテモ帝國政府ハ右根本方針ニ則リ米國ヲシテ同島ニ對スル從來ノ異議ヲ棄テ赤道以

北旧独領諸島全部ニ對スル我統治ノ事實ヲ認メシムルト同時ニ「ヤップ」島カ國際通信ノ關係上特殊ノ地位ニアルノ事實ニ鑑ミ海底電信無線電信其他一般電氣通信ノ關スル限り米國及米國人ニ對シ一定ノ特權免除便益等ヲ与フルノ趣旨ニ依リ米國政府ト交渉シ來レル次第ナルカ右ハ日米兩國間限リノ問題ナルヲ以テ万一會議開會前ニ解決ヲ見難キコトアリトスルモ兩國間ニ交渉ヲ繼續シ之ヲ會議ノ範圍外ニ置カシムヘシ尤モ今回ノ會議ヲ機トシ是非共本問題ヲ討議シタシトノ提案出ツルニ於テハ五大國間ニ於テ之ヲ審議スルコトニ異存ナシ

三 赤道以北旧独領委任統治条項ハ既ニ國際連盟理事会ノ決議ヲ經帝國政府ニ於テ公布シタルモノナルヲ以テ連盟規約所定ノ手續ニ拠ルニ非サレハ之ヲ變更スルコト能ハサルハ勿論ナリト雖モ一般連盟國カ右統治条項ニ依リ受クル利益ヲ米國ニ与フルコトハ帝國政府ニ於テ異議ナキ所ナリ

四 帝國政府ハ國際連盟ノ根本精神上並連盟規約ノ解釈上通商及貿易上ノ機會均等ノ保障ヲC式委任統治地域

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

ニ適用スルノ至當ナルヲ認ムルカ故ニ若シ米國其他何國カニヨリ委任統治地域ニ於ケル通商貿易上ノ機會均等主義ノ適用並利權及天然資源ニ關スル独占禁止ノ提議アルニ於テハ其ノ赤道ノ南北ヲ問ハス南太平洋ニ於ケル委任統治地域一般ニ適用セラルルモノナル限り贊同セラレ差支ナシ

五 「ヤップ」島ヲ中心トスル旧独海底電線問題ニ關シテハ帝國政府ハ米國及蘭領印度方面ニ對スル我通信權ノ確保ヲ主眼トナシ右電線ノ分配及運用ニ關シ日米蘭三國間ニ公平妥當ナル協定ニ達セムコトヲ庶幾シ此方針ヲ以テ華府國際通信予備會議ニ臨ミ且米蘭兩國政府ト交渉ヲ続ケ其解決条件ニ至テハ既ニ廟議ノ決定スルモノアルカ故ニ會議ニ於テ万一本問題ニ触ルルコトアラハ右既定ノ方針ヲ維持スヘキ意嚮ナリ

第四 支那問題

(甲) 會議ニ於テ進ンテ主張スヘキ事項

支那問題ニ關シテハ特ニ帝國ニ於テ他國ト異ナリ緊切ノ關係ヲ有スルヲ以テ今回會議ニ於テ最モ重キヲ置クヘキ中心問題並ニ之ニ對スル我方針ニ付テハ深く考慮ヲ要ス

ル処支那問題ニ付テハ左記ノ方針中(一)支那現在ノ政情不安定ノ事実及之カ為隣邦ノ適切ニ感スル不安ノ次第並支那ノ平和的進歩ノ助成ニ対シ我帝國ノ協力スヘキ衷心ノ好意ヲ縷陳セラレタク將又(二)支那ノ領土保全機會均等門戸開放ノ主義ヲ尊重スルコトハ帝國既定ノ方針ニシテ右(一)ト関連シ適宜声明セラレ差支ナク次ニ(三)支那自身ノ開放ハ會議ノ情勢ニ応シ提唱セラレタシ尙支那力會議ニ於テ日本既往ノ対支態度ニ対シ種々非難中傷ヲ加フルカ如キ場合ニハ篤ト弁明ヲ加フルノミナラス支那ニ於ケル行政財政司法其他一般政況乃至政情ノ実状ヲ詳細説明スルノ必要アルヘシ

一支那ニ於ケル現在ノ政情安定ヲ図リ且将来ノ福祉増進ノ為メ文化及經濟の両方面ヨリ其ノ平和的進歩ノ助成ヲ図ルコト

(イ) 政情不安定ノ事績ヲ縷陳スルコト

政情安定ハ支那自身ノ行フヘキ処ニシテ今回會議ノ機會ニ於テ参列國ト協調シテ篤ト支那ノ反省ヲ促スノ措置ヲ講スルコト

(ロ) 平和的進歩助成ノ方法

廢スルコト(鉄鉞閉鎖防穀令内地閉鎖等ノ如シ)

但シ日本ヨリ之ヲ主張スルニ当リ日本ハ支那ノ閉鎖ヲ云々スルモ畢竟スルニ其ノ主眼トスル処ハ支那ノ資源ヲ開發シテ日本独リ其ノ利惠ニ浴セムコトヲ期スルモノナルカ如キ疑惑ヲ与ヘサル様ノ力提唱ノ時機方法等ニ付テハ深甚ノ注意ヲ要スヘシ

(ニ) 會議ニ於テ議題トナリタルトキハ一定ノ保障又ハ条件ヲ付スルニアラサレハ賛成シ難キ事項

本項ニ屬スル事項中巴里平和會議ニ於テ帝國全權ヨリ已ニ声明セル行懸アルモノモアリ又其他ノ事項ト雖モ其趣旨ニ於テ不可ナク從テ正面ヨリ之ニ反對スルカ如キハ之ヲ避クルコト然ルヘシト雖モ翻テ巴里平和會議以後ニ於ケル支那ノ事態ヲ顧ミルニ混乱ノ度益々甚シキヲ加フルノミナラス日本ニ對スル態度亦頗ル好マシカラサルモノアリ此狀勢ヲ以テ推セハ果シテ如何ナル事態ニ到ルヘキヤ逆睹シ難キモノアリ旁々支那又ハ其他ノ國ヨリ本項ニ屬スル事項ヲ提議シタル際ハ各項ニ関シ将来ニ對スル相當ノ保障ヲ設ケ又ハ条件ヲ付シ以テ後累ヲ貽ササルノ手段ヲ講シタル上同意スル様取計ハレ度シ

(一) 文化的方面

各國共同シテ支那文化施設ノ進歩發達ヲ援助スルノ措置ヲ講スルコト從テ自然匪事件賠償金処分方ニ関シ提議ヲ見ルコトアルヘク此ノ場合ニハ帝國ハ該償金ヲ本項ノ如キ文化的施設ニ充当スルノ意向アル旨声明セラレ差支ナシ但シ本問題ニ付テハ英仏伊等ノ意向判明セサル次第第二モアリ旁々帝國トシテハ是等諸國ヲ強テ勸奨スルカ如キ態度ニ出ツルハ避ケタキコト

(二) 經濟的方面

新借款團又ハ其他ノ方法ニ依リ支那ノ經濟的改造及交通改善ノ企画ヲ援助シ以テ支那ノ經濟的能率ノ増進ニ資スルコト

二 支那ノ領土保全門戸開放機會均等ノ主義ヲ尊重スルコト

本主義ヲ恪守スルコトハ已ニ各國間ノ條約乃至各國ノ声明ニヨリ既定ノ方針ナリ

三 支那自身ノ開放即チ支那ニ於ケル排外的若クハ閉鎖的施設ノ如キ世界文化ノ趨勢ニ伴ハサル施設ハ之ヲ撤

一 領事裁判權ノ撤去

領事裁判權ノ撤廢ハ條約上ニモ公約アリ且巴里平和會議以來帝國政府既定方針ノ一ナリ但シ其ノ撤廢ハ支那ニ於ケル司法制度等ノ完備ヲ俟テ始メテ実行セラルヘキモノニ付此ノ点ニ付明確ナル条件ヲ付スルコトヲ要ス

二 在支外國軍隊ノ撤廢

在支外國軍隊ノ撤廢ハ巴里平和會議ニ於テ帝國全權ノ声明セル処ニシテ左ノ諸項ノ通り措置セラレタシ可成速ニ列國一律北支駐屯軍ヲ撤去スルコトヲ提唱スルコト

(但シ漢口派遣隊ハ可成速カニ撤退シ又北滿駐屯部隊ハ浦塩地方撤兵ト共ニ撤退ノ方針ナルコトヲ声明セラレ差支ナシ) 山東ニ於ケル日本ノ軍隊ハ目下山東問題善後措置ニ関シ支那ニ開談シタル次第アルヲ以テ右ニ拠リ措置スルコト

三 在支外國軍港ノ撤廢(日本トシテハ實際問題トナルハ旅順口ナリ)

若シ外國側ニ於テモ撤廢ニ異存ナキニ於テハ我方ニ於

テ各国一律撤廃ニ異存ナシ

四 勢力範囲ノ撤廃

支那ニ於ケル勢力範囲撤廃ハ巴里ニ於ケル帝国全權ノ声明セル処ニシテ經濟上ノ勢力範囲問題ハ新借款団ノ成立ニヨリ大部分自然ニ解決ヲ見タルモ今回ノ華府會議ニ於テ更ニ之ヲ明確ニ決定セムトスル場合ニハ各国トモ同一ニ之ヲ律スヘク即チ英國ノ勢力範囲ト認メラルル揚子江沿岸仏國ノ一般優先權ヲ有スル広東広西雲南地方等ニ於ケル排他的主張ヲモ一律撤廃スルヲ要スルコト勿論ナリ但シ滿蒙地方ニ対スル我國防並我國民ノ經濟的生存ニ関スル保障ハ新借款団成立當時既ニ留保セラレ勢力範囲ノ撤廃ニ於テ影響ヲ受クヘキニ非ス

五 在支外国警察官ノ撤退

不開放地ニ於ケル警察官ノ一時的駐在ハ同地方ニ於ケル秩序恢復セラレ外国人ノ生命財産ノ安全確保セラルルニ至ルヲ俟チ実行セラルヘキモノナリ又開放地ニ於ケル駐在ハ領事裁判權ノ撤廃ニ伴ヒ実行セラルヘキモノナリ

十 関稅自主權回收問題

関稅自主權回收問題ハ各国就中日本ノ対支貿易ニ至大ノ關係アリ今後一般ニ支那ニ於ケル稅制整理問題ノ進捗ト相俟チ各方面ニ亘リ十分調査研究ヲ重ヌルコト緊要ニシテ一朝ニシテ能ク決シ得ヘキ問題ニアラス

十一 支那借款鐵道統一問題

支那鐵道國際管理案ハ遽カニ帝國ニ於テ贊同スルコトヲ得サルモ其ノ範圍ヲ借款鐵道ニ限局スル程度ノモノナラハ攻究ノ価値アルモ其実行ノ方法組織等ハ十分調査ヲ要ス

十二 阿片問題

日本トシテハ既定ノ方針ヲ遂行シ度所存ナルモ最近支那自身盛ニ阿片ヲ栽培シ又ハ哈爾濱新嘉坡ヨリ密輸セラルル狀態ナルヲ以テ是等ニ対シ嚴重取締ヲ加フルニ非サレハ禁烟ノ目的ヲ達スルヲ得サルノミナラス公平ヲ欠クノ結果ニ陥ルヘキヲ以テ各国共同シテ一律禁絶ノ措置ニ出ツルコトトシ度シ

丙會議ニ於テ變更ヲ許ササル事項

帝國ニ取り重要ノ關係アル既成事實又ハ特定國間限りノ

六 在支外国郵便局ノ撤廃

支那ニ於ケル郵便制度改善セラレ外国人ノ通信ノ安全ヲ保障セラルルニ至ルヲ俟テ実行セラルヘキモノナリ

七 居留地ノ撤廃

内地雜居自由トナリ外国人ノ生命財産ノ安全確保セラルルニ至ルヲ俟テ実行セラルヘキモノナリ

八 不割讓約定ノ廢棄

支那ノ施政鞏固トナリ自ラ保全スルノ實力ヲ具フルニ至ルヲ俟テ実行セラルヘキモノナリ乍去本件ハ日英仏三国共通ノ問題ニシテ若シ英仏ニ於テ進テ本件ノ成立ヲ図ラムトスルカ如キ場合ニハ帝國政府ニ於テモ考慮ヲ加フル事トスヘシ

九 支那行政自主權回收問題

支那ニ於ケル関稅塩稅郵稅等ハ外國ニ於テ極メテ密接ノ關係ヲ有シ且今日相当ノ成績ヲ挙げ居レルハ全ク外國人ノ協力ニ依ル次第ニ付今直ニ支那側ノ手ニ移スハ却テ本来ノ目的ニ反スル結果ヲ招ク虞アレハ将来支那カ此等行政上ノ能力ヲ完備スルニ至ルヲ俟テ実行セラルヘキモノナリ

問題カ會議ニ於テ審査裁決セラルルカ如キコトニハ同意スルヲ得サルモ會議ノ形勢如何ニヨリテハ之ヲ討議ニ付シ十分帝國ノ立場ト事態ノ真相トヲ説明シ一般ノ諒解ヲ求ムル為メ機宜ノ措置ヲ執ラレ差支ナシ尚比ノ種ノ事項ニ属スル具体的問題ノ重ナルモノヲ挙クレハ左ノ如シ

一 山東善後措置問題

曩ニ廟議決定ノ措置案大綱ニ基キ更ニ公正寛容ヲ本旨トスル細目案ヲ決定シ閣下等ノ御含迄追テ申進スル処有之ヘキニ付閣下等ハ必要ノ際之ニヨリ帝國ノ立場ヲ説明セラレ差支ナシ

二 大正四年日支条約効力問題

同条約効力其ノモノヲ否認セムトスルカ如キ主張ニハ断シテ同意スルコトヲ得サルモ會議ノ情勢如何ニ依リテハ或程度迄交讓ノ精神ヲ示スコト必要ナルヘク又討議ノ際応酬上帝國政府ノ意向ヲ知悉シ置カルル方便利ナル点モ有之ヘク旁々本件ニ関スル具体的問題ニ付左記方針御含置ノ上必要ニ応シ可然措置セラレタシ

(イ) 滿蒙ニ於ケル左記優先權ハ之ヲ主張スルノ意思ナキコトヲ説明セラレ差支ナシ

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

(一) 鉄道借款優先権

(二) 課税担保借款優先権

(右二優先権ハ新借款団成立ノ結果事実上消滅ニ
歸セルト同様ナリ)

(三) 政治軍事財政警察ノ顧問傭聘優先権

(四) 所謂第五号ハ他日ノ商議ニ譲ルヘシトノ留保ハ之ヲ
援用スルノ意思ナキコトヲ説明セラレ差支ナシ

三 関東州租借地問題

帝國政府ハ本問題租借期限ニ関スル日支条約ノ規定ヲ
翻シ又ハ租借地ヲ還付スルカ如キ提言ニハ到底同意ス
ル能ハス

四 満鉄(安奉線ヲ含ム)中立乃至回収問題

帝國政府ハ南滿鐵道ノ「ステータス」ヲ變更セムトス
ルカ如キ提言ニハ到底同意スル能ハス

(丁) 石井「ランシング」協定問題

本協定所謂特殊利益ノ釈義ニ関シテハ日米ノ了解ニ相違
アルカ如シト雖モ強テ政治的若クハ經濟的何レカニ局限
スルノ要ナク畢竟地理的關係ヨリ生スル特殊關係ナリト
解スルコト至当ナリ

得策トス從テ我ヨリ進ンテ主張スヘキ事項ナシ

(乙) 討議ニ異議ナキ事項

一 領土保全

主義上賛成セラレテ可ナリ

二 行政権保全

主義上賛成セラレテ可ナリ尚會議ノ情勢上西比利亞駐
兵及「サガレン」占領等ニ関連シ説明ヲ要スル場合ニ
ハ我行動施設ノ内政干渉若クハ行政権侵害ニアラサル
次第ヲ明カニセラレタシ

三 門戸開放—商業及産業上ノ機会均等

主義上賛成セラレテ可ナリ但シ我漁業權ノ如キ承認サ
レタル条約上ノ既得權ヲ除クコト

四 西比利亞共同管理

左ノ趣旨ニ依リ之ニ反対セラレタシ
露西亞人ヲシテ之ヲ治メシメサルヘカラス今ヤ欧露ニ
於テモ極東露領ニ於テモ既ニ事実上ノ政府存在スルニ
拘ハラス之ヲ無視シテ共同管理ヲ行フハ内政干渉ノ最
モ甚シキモノニシテ之ニ賛成スルヲ得ス

五 西比利亞鐵道共同管理

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

從テ米國ニシテ之カ廢棄ヲ主張セサル以上何等ノ顧慮ヲ
要セス現状ノ儘トシ又同國ニシテ之カ廢棄ヲ主張スルニ
於テハ之ニ同意セラレ差支ナシ

(戊) 広東政府代表者派遣問題

広東政府ハ未タ諸外國ノ承認ヲ經タルモノニアラサルヲ
以テ其ノ代表者ハ今回ノ會議ニ公然參列シ得ヘキ資格ヲ
有スルコトナキモ日本ヨリ進テ右資格問題ノ如キヲ主張
スルコトハ避ケラレタシ尤モ同代表者ヲ會議ニ招致シ為
參考其ノ意見ヲ聴取スルコトニハ強テ反対スルニ及ハス
付 朝鮮問題

今回ノ會議ヲ機トシ朝鮮人中独立ノ氣勢ヲ揚ケントシ
テ妄動ヲ試ミ為之場合ニ依リ所謂朝鮮問題ノ會議ニ上
議セラルル事ナキヲ保セス如此場合ニハ本問題ノ如キ
ハ付議セラルヘキモノニ非ストシテ直ニ拒斥セラルヘ
シ

第五 西比利亞問題

(甲) 進ンテ主張スヘキ事項

西比利亞問題ニ関シテハ撤兵問題尼港問題等極メテ微妙
ナル問題存スルヲ以テ我方ヨリ進テ問題ヲ提起セサルヲ

露國側ヲ主体トシ重ナル利害關係國ト共同援助ヲ為ス

ハ異議ナキモ露國ノ權利ヲ無視スル如キ方法ヲ以テ列
國共同管理ヲ行フコトニ対シテハ反対セラレタシ

六 「チタ」政府承認問題

「チタ」政府ノ承認ハ通商撤兵及尼港問題解決上帝國
ニ取リ有利ナルモ我方ヨリ進ンテ之ヲ提議スルトキハ
列國ノ誤解嫉視ヲ招ク虞アルニ依リ他ノ列國ニ於テ承
認説ニ傾ク場合ニハ之ニ賛成スル態度ヲ執ラレタシ

(丙) 會議ニ於テ審査裁決ヲ容ルササル事項

一 西比利亞撤兵問題

左ノ趣旨ニ依リ帝國ノ態度ヲ宣明シ本問題ノ審査裁決
ヲ拒否セラレタシ

浦潮方面駐兵ハ朝鮮ニ対スル過激派ノ脅威及在沿海州
多数居留民ニ対スル危険存在セル為自衛上不得止ノ措
置ニ出テタルモノナルヲ以テ極東露領ノ政情安定シ右
ノ脅威及危険除去セラレ本邦人カ自由ニ平和的經濟発
展ヲ為シ得ルニ至レハ直ニ撤兵スヘク既ニ東部西比利
亞ニ於ケル事実上ノ統治団体タル齊多政府ト交渉ヲ開
始シ正ニ本件ハ解決ノ緒ニ就キ居ル次第ナルヲ以テ列

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (一)

国ノ介入ハ徒ラニ事端ヲ滋クスルノミナラス却テ事件ノ解決ヲ遷延セシムルコトトナルヘキニヨリ本件解決ハ全然両当事国間ノ交渉ニ一任スルヲ至当トス

二 薩哈噠占領問題

左ノ趣旨ニ依リ本問題ノ審査裁決ヲ拒否セラレタシ本件ハ西比利亞共同出兵ト何等關係ナク全然尼港虐殺事件ニ起因スルモノニシテ國際法上不当ノ措置ニアラス本問題ヲ列国ノ審査裁決ニ付セントスルカ如キ場合ニハ國論ノ沸騰其ノ極ニ達スヘキハ明カナルノミナラス事ノ性質上國威ニ関シ列国ノ干涉ヲ許スヘカラサルニ顧ミ本件ヲ列国会議ノ審判ニ付センコトハ我方ノ容認シ得サル処ナリ

(別紙二)

華盛頓會議帝國全權委員ニ対スル訓令説明書

第一一般方針及第二軍備制限問題ニ関シテハ特ニ説明ヲ付セス

第三 太平洋問題

(甲) 會議ノ情勢ニ依リ主張スヘキ事項

一 列國領土ノ相互尊重

謂日本ノ脅威ニ対スル危惧ノ念ヲ和ケ排日宣伝ノ口実ヲ除去スルノ効益アルヘシ

二 門戶開放——商業及産業上ノ機會均等

太平洋方面ニ於ケル列國ノ領土ニ門戶開放——商業及産業上ノ機會均等主義ヲ適用スルコト

(一) 日米協商ニ於テ兩國政府ハ「太平洋ニ於ケル兩國商業ノ自由平穩ナル発達ヲ奨励スル」ノ希望ヲ声明シタルカ國際交通ノ頻繁ナル今日ニ在テハ此種ノ約定ハ単ニ之ヲ日米兩國間ニ限局スルノ理由ナク而シテ各国民間ノ商業ノ自由平穩ナル発達ハ各国民ニ對シ商業及産業上衡平均等ノ地位ヲ承認スルコトニ依リ初メテ之ヲ庶幾シ得ヘシ

(二) 茲ニ所謂産業ハ出来得ル限り之ヲ広義ニ解シ独リ製造工業ノミナラス鉱山業、農業、林業、漁業等ヲモ包含セシムルモノニシテ又機會均等主義トハ外國人ニ對シ國民待遇ヲ与フヘキコトヲ主張スルモノニハ非スシテ単ニ外國人間ノ差別ヲ撤シ最惠國待遇ヲ一般ニ認メシメントスルモノニ過キス

(三) 門戶開放機會均等主義ハ素支那ニ於ケル列國勢

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

太平洋方面ニ於ケル列國ノ領土ヲ相互ニ尊重スルノ主義ヲ一般ニ認ムルコト

(一) 日英同盟協約ニ於テ日英兩國政府ハ東亞及印度ノ地域ニ於ケル兩國ノ領土權ヲ保持スルコトヲ約定シ日仏協約ニ於テハ日仏兩國政府ハ亜細亞大陸ニ於ケル相互ノ地位並領土權ヲ保持ヲ約シ又日米協商ニ於テハ日米兩國政府ハ太平洋方面ニ於ケル現狀維持ヲ目的トシ且他ノ一方ノ有スル所領ヲ相互ニ尊重スルノ強固ナル決意ヲ有スルコトヲ声明セリ斯ノ如ク極東及太平洋方面ニ於ケル各國領土ノ相互尊重主義ハ既ニ数次ノ國際約定ニ規定セラレタルカ帝國ハ今回ノ會議ニ於テ此ノ主義ヲ更ニ列國間ニ確認スルト共ニ其適用範圍ヲ太平洋方面ニ於ケル日、英、米、仏、蘭等諸國ノ領域全般ニ及ホスヘキコトヲ主張シ以テ太平洋方面ニ於ケル一般平和ノ確保ニ寄与セントス(但シ支那ノ領土保全ハ別個ノ問題トス)

(二) 而シテ帝國ノ立場ヨリ言フトキハ右主義ノ一般の確認ノ結果太平洋防備ノ制限乃至撤廃問題ノ解決ヲ資クルト同時ニ太平洋沿岸各地ニ喧伝セラルル所力範圍内ノ商業及産業ニ関連シテ唱道セラレタルモノナルモ近年之カ適用漸次拡張セラレ今ヤ或種ノ委任統治地域ニ及ヒ更ニ又今回會議ノ議題ニ關スル米國試案ニ徴スルニ同國ニ於テハ西比利亞ニモ其適用ヲ認メントスルカ如シ而シテ機會均等主義ヲ商工業ノミナラス更ラニ進テ天然資源ノ利用開發ニモ及ホスコトハ米國自ラ唱道スル所ニシテ例ヘハ巴里講和會議ニ於テ「ウキルソン」大統領ハ委任統治地域ニ天然資源ノ利用開發ニ關スル機會均等主義ヲ適用スルノ考案ヲ有シタルカ米國政府ハ蘭領印度石油問題ニ關シ客年九月七日付及本年四月十九日付和蘭政府宛公文ニ於テ重要ナル天然資源開發ニ關スル各国民ノ相互ノ自由ノ原則並ニ將來世界石油問題ニ對スル唯一ノ解決方法トシテ機會均等主義ヲ主張シタリ

(四) 而シテ太平洋ニ於ケル機會均等主義一般ニ認メラルトキハ我國ハ之ヲ以テ例ヘハ仏領印度支那ニ於ケル關稅及通過稅ノ差別待遇「ニウ・カレドニア」ニ於ケル中途積換貨物ニ對スル差別課稅等ヲ改メシメ又英國自治領ニ於ケル特惠關稅、濠州ニ於ケル中

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (一)

間税、巴奈馬運河差別的通航税等ノ賦課ニ反対スルノ根拠トナシ得ルカ如キ実益アルヘシ

(五) 尚機會均等主義ニ関連シテ議論スヘキ天然資源問題及外人待遇問題ハ帝國政府ニ於テ特ニ重キヲ置ク所ナルヲ以テ以下項ヲ改メ之ヲ説明スヘシ

三 天然資源ノ利用分配

太平洋方面ニ於テ天然資源ノ利用分配ニ関シ列国間ニ共助協力主義ヲ認ムルコト

(一) 各国民ノ經濟生活上必要欠クヘカラサル原料ノ利用分配ハ今日衡平ヲ得サル状態ニ在リテ動モスレハ国民生活ノ不安ヲ招キ延テ國際平和ニ対スル脅威タラムトスルカ故ニ一般平和ヲ確保センカ為ニハ膏ニ天然資源ノ開發利用ニ関シ他ノ各国民ニ均等ナル機會ヲ与フルノミナラス更ニ進シテ其利用分配ニ就キ各国民間ニ共助協力ヲ為スノ主義ヲ確立セサル可ラス

(二) 巴里連合國經濟會議ニ於テハ連合國間ノ天然資源ノ交換ニ関スル共助協力ノ必要ヲ認メ華盛頓國際労働會議ハ失業問題ニ関連シテ原料独占問題ヲ討議

スルコトアルヘキヲ予期セサルヘカラス

四 外国人待遇問題

列國ハ相互ニ太平洋方面ニ於ケル自國領域ニ於テ適法ニ入國セル他ノ各国民ニ対シ均等衡平ナル待遇ヲ与フルノ主義ヲ認ムルコト

一 各国民ノ自由平穩ナル交通ハ世界平和ノ基礎タルヘキコト言フヲ俟タス然ルニ今日太平洋沿岸諸國ニ於テ各国民ノ往來居住及營業等ニ関シ種々不當ナル制限行ハレ往々不幸ナル紛争ヲ惹起シ為ニ各國ノ輿論ヲ刺戟シ相互ニ猜疑厭忌ノ念ヲ招キ時トシテハ國際平和ヲ破ラントスル形勢ヲ生スルコト無キニ非サルハ恒久平和ヲ確保シ人類ノ幸福ヲ増進スル所以ニ非ス故ニ太平洋方面ニ於ケル恒久平和ヲ確保セントセハ此方面ニ於ケル列國ノ領域ニ於テ他ノ國民ニ対シ均等衡平ナル待遇ヲ与フルノ主義ヲ確立セサル可ラス唯今日ノ状態ニ於テハ此方面ニ本邦人殊ニ労働者ノ往來自由ヲ承認セシムルコトハ至難ニシテ此際我ヨリ入國自由ノ問題ヲ提議スルトキハ必スヤ英米國民ノ輿論ヲ刺戟スルヲ免レサルヘク強テ之ヲ固執

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

シ「ジュネーヴ」國際坑夫會議ハ石炭問題ヲ論シ又「ブラッセル」財政會議ニ於テハ刻下世界の經濟危機ノ一原因トシテ原料問題ヲ議シ更ニ又客年「ブラッセル」國際連盟理事會ニ於テ伊國代表ハ原料独占ノ妨止ヲ主張シ今ヤ本問題ハ各國民ノ最重要ナル經濟問題トナレリ

(三) 而シテ帝國ハ由來天然資源ニ乏シク産業ノ發達及國民生活ニ欠クヘカラサル原料ハ主トシテ支那、西比利亞並ニ太平洋方面ニ於ケル列國領域ニ之ヲ仰カサルヘカラサル実状ニ在ルヲ以テ原料問題ニ関シテハ國際間ノ交換ヲ出來得ル限り自由ナラシムルヲ以テ利益トスルコト勿論ナルカ是亦一方ニ於テ列國間ノ平和的關係ヲ増進シ戰後ノ經濟的回復ヲ速カナラシムル所以ナルカ故ニ帝國ハ右ノ方針ヲ以テ講和會議及國際連盟諸會議等ニ蒞メリ然ルニ本問題ニ対スル各國ノ態度ヲ見ルニ伊國カ帝國ト立場ヲ同シクスルコトハ客年國際連盟理事會ニ於ケル同國代表ノ主張ニ依リ容易ニ之ヲ看取シ得可シト雖英米兩國ニ至テハ全然我ト利害ヲ異ニスルヲ以テ本問題ニ反対

スルニ於テハ他ノ我提案ニモ累ヲ及ホシ我立場ヲ困難ナラシムルノ虞アルヲ以テ今回ハ單ニ適法ニ入國セル外國人ニ対シ均等衡平ナル待遇ヲ与フルノ主義ヲ認メシムルコトヲ以テ甘セサルヲ得ス

二 前記主義ヲ直ニ實際問題ニ適用セムトスルトキハ或ハ各國既定ノ國策ニ反シ或ハ現行制度ノ改廢ヲ必要トスルニ至ルヘク而カモ之ニ対スル米國及英國自治領ノ態度ハ往年ノ日英通商條約濠州加入問題及巴里講和會議ニ於ケル人種平等待遇問題ノ經過ニ照シ之ヲ察知スルニ難カラス今日一挙ニシテ我主張ノ貫徹ヲ期スルカ如キハ固ヨリ望ムヘカラサルモ帝國カ敢テ本問題ヲ提起セムトスル所以ノモノハ正義人道ノ見地ヨリ英米兩國國民ノ反省ヲ促シ一度本主義ヲ確認セシメ以テ米國及英國自治領等ニ於テ本邦人ノ現ニ受ケツツアル法律上及事實上ノ各種ノ制限ヲ漸次除去シ少ク共之ヲ緩和スルノ素地ヲ作ラムトスルニ外ナラス

(乙) 討議ニ異存ナキ事項

一 委任統治地域割當問題

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (一)

赤道以北旧独領諸島全部ニ対スル我委任統治ハ他ノ旧独逸植民地ノ処分ト共ニ一九一九年五月七日連合国最高會議ニ於テ決定ノ上翌八日公表セラレ次テ一九二〇年十二月十七日「ジュネーヴ」ニ於ケル國際連盟理事會ノ決議ニ依リ確認セラレタリ

二 「ヤップ」島歸屬問題

「ヤップ」島ニ関シテハ講和會議中米國側ニ於テ同島カ國際通信上重大ナル關係アルヲ理由トシテ其國際管理ヲ主張シタリシカ前記五月七日ノ決議中ニハ同島ニ関シ何等明言スル所ナキ其ノ歸屬問題ニ関シ日米間ニ爭議ヲ生シタリ講和會議後米國国内ニ於テ此点ニ関シ夙ニ論議ヲ見タリシカ偶々昨年華府國際通信予備會議ニ於ケル日米兩國委員ノ論争ニ端ヲ發シ民主黨政府ハ同年十一月十二日付覚書ヲ以テ帝國政府ニ対シ五月七日決議ノ際「ウイルソン」大統領カ「ヤップ」島ニ関シ留保スル所アリタリトノ理由ノ下ニ同島ニ対スル帝國ノ統治ヲ認メ難キ旨ヲ通牒シ来リ爾來兩國間ニ数次ノ交渉ヲ重ネ又他方ニ於テ米國政府ハ本年二月二十一日付通牒中ニ於テ國際連盟理事會ニ対シ赤道以北旧

二〇〇

独逸領諸島全部ニ対スル日本委任統治ノ再議ヲ要求シタリ之ニ対シ國際連盟理事會ハ同年三月一日付公文ヲ以テ委任統治地域ノ割当ハ最高會議ノ職權ニ屬シ同理事會ハ単ニ其決定ニ基キ統治條項ヲ制定シタルニ過キス且C式委任統治條項ハ既ニ決定済ニシテ之ヲ再議シ得サル旨ヲ回答シタルカ共和黨政府ニ至リテハ本年四月五日付日英仏伊諸國宛通牒ニ於テ從來ノ論鋒ヲ一變シ旧独逸海外領土ノ処分權ハ一ニ同盟及連合國ノ戰勝ニ依リテ獲得シタル所ナルヲ以テ此勝利ニ参加シタル米國カ右処分權ヲ有スルコトハ当然ノ事理ナリトシ米國ノ同意ナクシテハ旧独領ノ如何ナル処分モ其効力ヲ認メ難シト主張シ且五月七日ノ決議其者ノ効力スラ否認セムトスルノ態度ヲ示セリ仍テ帝國政府ハ米國ヲシテ「ヤップ」島ノ歸屬ニ対スル從來ノ異議ヲ棄テシムルト同時ニ同島ノ國際通信上ニ於ケル特殊ノ地位ニ顧ミ通信業務ノ關スル限り米國及米國人ニ対シ一定ノ特權便宜ヲ与フルノ趣旨ニ依リ米國政府ト交渉シ来リタル結果最近ニ至リ同島ニ於テ海底電信無線電信其他一般電氣通信ノ關スル限り米國及米國人ニ対シ(イ)何等ノ

制限ナク居住スル權利及日本若ハ其ノ他ノ諸國又ハ其ノ國民ト全然同等ノ基礎ニ於テ動産、不動産ヲ取得シ所有シ若ハ占有スル權利(ロ)米國ノ所有ニ歸スヘキ海底電線ヲ自由ニ運用シ得ル權利(ハ)海底電信ノ檢閲又ハ運用若ハ通信ニ対スル監督ヲナサルコト(ニ)人及財産出入ノ自由(ホ)海底電線ノ運用並財産人若ハ船舶ニ対スル免税(ヘ)警察法規ハ無差別ナルコト等ノ特權免除便益等ヲ与フルコトヲ承認シ彼我ノ見解漸ク接近シタルニ偶々米國ヨリ我委任統治條項ノ承認ニ関シ新ナル條件ヲ要求シ来リタル為未タ全局ノ解決ヲ見ルニ至ラサル次第ナリ

三 赤道以北旧独領委任統治條項

我委任統治地域ニ適用セラルヘキ統治條項ハ前記ノ如ク昨年十一月十七日「ジュネーヴ」ニ於テ國際連盟理事會ニ依リ決定セラレ帝國政府ニ於テハ樞密院ニ報告ノ上本年四月二十九日之ヲ公布シ現ニ同條項ニ準拠シテ右地域ノ施政ヲ行ヒツツアリ即チ同條項ハ既ニ確定ノモノニシテ連盟規約所定ノ手續ニ拠ルニ非サレハ之ヲ變更スル能ハサルコト勿論ナリ然ルニ米國政府ハ未

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

四 通商上ノ機會均等問題

帝國政府ハ國際連盟ノ根本精神上將又連盟規約ノ解釈上C式委任統治地域ニ於テ通商及貿易上ノ機會均等主義ヲ適用スルノ至当ナルコトヲ信シ委任統治組織委員會連合國最高會議國際連盟理事會ニ於テ屢々之ヲ主張シ且本問題ニ関シ久シク英國政府ト交渉ヲ重ネタルモ

二〇一

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

主トシテ濠州ノ反対ノ為容易ニ關係国ノ同意ヲ得ルニ至ラス帝國政府ハ和衷共同ノ精神ヲ重シ且本問題ヲ未解決ノ儘存置セシムルヲ欲セス英國政府ヨリ日本人ハ赤道以南委任統治地域内ニ於テ統治国内ニ於ケルヨリモ劣等ナル待遇ヲ受クルコトナカルヘキ旨並日本人ノ既得權ハ尊重セラルヘシトノ保障ヲ得テ客年十二月十七日「ジュネーヴ」ニ於ケル國際連盟理事会ニ於テ機會均等保障ニ關スル規定ヲ包含セサル統治条項ヲ承認スルト同時ニ機會均等問題ニ關スル我從來ノ主張カ正当ナルコトノ確信ヲ有スル旨並右ノ形式ニ於ケル委任統治条項ノ決定ハ委任統治地域ニ於テ帝國臣民カ差別の且不利益ナル待遇ヲ受クルコトヲ帝國政府ニ於テ容認シタルモノト看做スヲ得サルコト又帝國政府ハ帝國臣民カ從來是等ノ地域ニ於テ享有シタル權利及利益ノ充分尊重セラルヘシトノ主義ヲ右決定ニ依リテ拋棄シタルモノニ非サルコトヲ宣言シタリ

前記英國政府トノ交渉ノ行懸アルニ鑑ミ今回ノ會議ニ於テ我國ヨリC式委任統治地域ニ對シ機會均等主義ノ適用ヲ主張スルコトハ國際信義上避クルヲ可トスルモ

ハ各々其ノ所有線ノ兩端ヲ運用スルコト並和蘭支那及大北電信会社ノ關スル事項ニ就テハ是等各關係者ノ承諾ヲ得ル為主タル同盟及連合国ニ於テ共同ニ尽力スルコト等ニ關シ日米間ニ略合意成立セルモ前記ノ如ク米國ハ電線ノ処分以外ノ問題ヲ提起セル為ニ未タ全局ノ解決ヲ見ルニ至ラス一方ニ於テ和蘭政府ハ講和會議中ヨリ數回ニ亘リ「ヤップ」海底線ニ關スル自國ノ權利ヲ主張シタルカ帝國政府ハ電線其ノ物ヨリモ蘭領印度方面ニ對スル通信權ノ獲得ニ重キヲ置キ和蘭ノ利益ハカメテ之ヲ尊重シ將來通信上ノ連絡ヲ円滑ナラシムル方針ヲ以テ昨年十一月同國ニ對シ交渉ヲ試ミタルモ先方ニ於テハ華府通信予備會議ノ決定アル迄右交渉ヲ見合ハセ度旨回答シ来リ其儘トナリ居レリ

又支那政府ハ本年九月二十四日付在支帝國公使宛公文ヲ以テ(一)「ヤップ」上海線ノ処分ハ支那ノ同意ヲ要スルコト並(二)同線ノ上海陸揚權ハ独支開戦ノ結果消滅シタルコトノ二点ヲ挙ケ「ヤップ」海底線ノ処分方ニ對シ抗議シ来レルモ帝國政府ハ右ニ對シ何等回答ヲ發スルコトナク日米間ニ協定成立ノ上共同措置ニ出ツ

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

二〇二

若シ米國其ノ他何國カヨリ斯ル提議アルニ於テハ其ノ赤道ノ南北ヲ問ハス南太平洋ニ於ケル委任統治地域一般ニ適用セラルルモノナル限り我統治地域ニ付之ヲ承諾スルモ何等不利アルヲ見サルナリ

五 「ヤップ」海底電線処分問題

一九一九年五月三日ノ巴里議定書ニ基キ旧独逸領海底電線ノ処分及運用其ノ他ノ問題ヲ商議スル為昨年十月華盛頓ニ開催セラレタル國際通信予備會議ニ於テ日本ハ当初「ヤップ」ヲ中心トスル旧独逸三線全体ニ對スル所有權ヲ要求シ之ニ對シ米國政府ハ最初「ヤップ」上海線ヲ戰前狀態ニ復旧セシムコトヲ主張シ且同線ノ所有ヲ要求セムトスルノ氣勢ヲ示シ次ニ「ヤップ」關係三線ノ日米共有ヲ提唱シタルカ最後ニハ単ニ「ヤップ」「グアム」線ヲ要求シ日米間ニ累次折衝ヲ重ネタルモ英仏兩國ニ於テモ太平洋海底電線ニ對スル各自ノ要求ニ付多大ノ讓歩ヲナシ我國独リ当初ノ要求ヲ固執シ得サル形勢トナリタルヲ以テ日米間ノ妥協案トシテ「ヤップ」上海線ハ日本ニ「ヤップ」「グアム」線ハ米國ニ又「ヤップ」「メナド」線ハ和蘭ニ夫々分配シ各國

ル方針ナリ

第四 支那問題

(甲)會議ニ於テ進テ主張スヘキ事項

一 支那現在ノ政情不安ナル事實ヲ陳スルノ必要及平和的進歩ノ助成

支那ニ於ケル政情安定ハ支那自ラ実行スヘキ問題ナリ外國ニ於テ之ニ干与スルハ實ニ目的ヲ達シ難キノミナラス却テ事態ヲ紛糾セシムル所以ナリ乍去支那国内ノ動搖ハ實ニ支那自身ノ不幸ナルノミナラス支那ニ利害關係ヲ有スル列強就中日本ニ取リ其ノ影響スル所大ニシテ極東ノ平和ヲ保持スル見地ヨリ云フモ支那政情ノ安定ハ極メテ望マシキ次第ニ付支那現在ノ政情不安定ノ事實及之カ為我國力適切ニ不安ヲ感シ居ル次第ヲ詳述シ關係列強ト共ニ今回會議ノ機會ニ於テ恒ニ友邦ノ靜寧安固ヲ冀望スルノ誠意ヲ披瀝シ之カ為真摯ナル勸告其ノ他適切ナル措置ニ於テ支那側ノ反省ヲ促スコト緊要ナリ

列國ニ於テ支那ノ平和的進歩ニ對シ助成スルノ必要ナルハ是亦絮說ノ要ナク殊ニ団匪賠償金ヲ還付シ之ヲ文

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

化的施設ニ投スルハ曩ニ米國政府ノ実行セル所ニシテ同國ニ於テハ最近其ノ残余ヲモ還付セムトノ議アリ帝國政府モ其ノ処分ニ付テハ既ニ大正七年九月二十一日我外務大臣ヨリ支那公使ニ對シ団匪賠償金ノ請求權ヲ拋棄スルノ内意ヲ有シ其ノ弁法ハ別ニ考慮ヲ尽シテ決定スヘキ旨聲明シ更ニ第四十一議會ニ於テ我總理大臣及外務大臣ヨリ団匪事件賠償金問題ハ日支ノ間ニ變更スヘカラサル關係トナリ居ル旨聲明アリ且ツ本年七月二十二日外交調査会ノ決定モアリ本問題討議ニ上リタルトキハ帝國政府ニ於テモ既定ノ方針ニ從ヒ之ヲ支那ノ為メ処分スル意嚮アル旨聲明セラレ差支ナシ經濟の方面ニ於テ平和の進歩ヲ助成スルノ一方法トシテ新借款團ニ依リ混沌タル支那ノ經濟狀態ヲ改造シ且歐洲戰爭ノ為中絶シ居レル鐵道敷設ヲ促進シ其ノ經濟的能率ヲ増進スルハ舊ニ支那國民ノ福祉ヲ増進スル所以タルノミナラス世界ノ等シク其ノ利益ニ浴スル所ニシテ殊ニ支那ト密接ノ關係ニ在ル日本國民ノ經濟の生存ノ確保ノ為ニハ頗ル緊要事ナリト謂ハサルヘカラス

一 領事裁判權ノ撤去

領事裁判權ノ撤廢ハ各國ト支那トノ通商條約ニ於テ支那司法制度完備ノ曉ハ領事裁判權ヲ撤廢スヘキ旨明約アリ且巴里平和會議以來帝國政府既定方針ノ一ニシテ本年七月二十二日外交調査会ニ於テモ之ヲ決定セリ但シ領事裁判制度ノ撤廢ヲ實現セムトセハ先ツ支那ノ法典編纂裁判官ノ陶冶、裁判組織ノ改善、警察機關ノ刷新等支那司法制度ノ完備ヲ期セサルヘカラス而カモ現下ノ情態ニ於テハ右制度ノ完備ヲ獨リ支那ノ努力ニ俟ツニ於テハ領事裁判制度撤廢ヲ實現シ得ルノ日ハ前途頗ル遼遠ノ觀ナクンハ非スサレハ列國ニ於テ愈々之カ撤廢ニ賛成シ其ノ實現ヲ期セムトセハ自然其ノ司法制度完備ノ為メ必要ナル準備行為ニ對シ援助ヲ与フルコトヲ要スルニ至ルヘキモ之トテ其ノ完成ニハ相當ノ年月ヲ俟タサルヘカラス

二 在支那外國軍隊ノ撤廢

日本ノ支那ニ於ケル軍隊ハ北支駐屯軍、漢口派遣軍、山東ニ於ケル派遣軍、南滿州ニ於ケル駐屯軍等ニシテ其ノ數約一万二千余人ナリ尚右ノ外北滿州地方ニ臨時

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (一)

二〇四

二 支那領土ノ保全機會均等門戶開放主義ヲ尊重スルコト

右ハ帝國ト列國トノ條約ニヨリ公約セラレ且ツ帝國累次ノ聲明ニヨリ既定ノ根本義タリ特ニ聲明スル迄ノ事ナキモ今回ノ會議ヲ機トシ更ニ之ヲ確認セムコトハ帝國政府ニ於テ之ヲ辞スヘキ理由ナシ

三 支那自身ノ開放

列國ニ於テ支那ノ平和の進歩ニ對シ文化的の方面ト相併ヒ經濟的の方面ヨリモ助成シ其ノ經濟的能率ノ増進ヲ図ラムトスル以上支那自身トシテモ鐵道閉鎖防穀令等ノ排他的乃至閉鎖的施設ヲ撤廢シ支那自身ノ福利ヲ確保増進スルト共ニ各國モ其ノ利益ニ浴セシムルノ方途ニ出ツルコト当然ノ施措ナリ唯鐵鉞問題ト謂ヒ防穀令問題ト謂ヒ之カ為メ最モ利益ヲ感スルハ日本ニシテ現ニ日支間ニ懸案トナリ居レル事實ニ顧ミ日本カ支那自身ノ開放ヲ提言スル時機方法ニ付テハ十分會議ノ情勢ニ注意スルコト肝要ナルヘシ

(乙)會議ニ於テ議題トナリタルトキハ一定ノ保障又ハ條件ヲ付スルニ非サレハ賛成シ難キ事項

派遣セラレタル部隊アリ右ノ内北支那駐屯軍ハ団匪事件ノ結果支那トノ條約ニ基キ各國ヨリ一律派遣セラレ居ルモノニシテ漢口派遣軍ハ第一革命ノ際居留民保護ノ為派遣セラレタルモノナリ又山東派遣軍ハ日獨戰爭ノ結果ニ基クモノニシテ主トシテ山東鐵道警備ノ任ニ服シ居レリ又南滿州鐵道沿線ノ軍隊ハ「ボーツマス」條約及滿州ニ関スル日支條約ニ根柢スルモノニテ北滿派遣軍ハ日支軍事協定ノ結果ニ依ルモノナリ尚支那ニ於ケル外國軍隊ノ撤退ニ付テハ巴里講和會議ニ於テ帝國全權ノ聲明セル處ニシテ又本年七月二十二日外交調査会ノ決定ヲ見タル処ナリ

三 在支外國軍港ノ撤廢

日本トシテハ問題トナルハ旅順要港及青島ナリ青島ハ商港トシテ開放セラルヘキコト條約ノ明定スル處ニシテ又帝國政府既定ノ方針ナリ旅順口ノ要港モ今日ノ情勢ニ於テハ威海衛等ノ外國軍港撤去セラルルニ於テハ之カ保持ヲ固守スルノ必要ナシ

四 勢力範圍ノ撤廢

元來勢力範圍ハ支那分割政策ニ胚胎スル勢力伸張ノ一

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (一)

方法トシテ欧州先進国ノ執レル施設ナリ其ノ意義明確ヲ欠クノ嫌アルモ最モ問題トナルハ機会均等、門戸開放主義ニ関連シ經濟上排他主張ヲ為スモノ之ナリ日本トシテ考慮ヲ要スルハ滿蒙、山東及福建ナリ右ノ内山東ハ已ニ独逸時代ノ一般優先權拋棄ヲ以テ日支直接交渉条件ノ一トシテ世界ニ宣明シ滿蒙及福建ハ新借款団ノ成立ニヨリ事實上大部分ノ解決ヲ遂ケタル次第ニテ残ル問題ハ公募ニ依ラサル借款又ハ政府ノ保障ナキ借款ノ類ニ付優先權ノ規定適用アルコト並一般借款ニ付支那トノ關係ニ於テ兎モ角支那側ヨリ先議セラルル權利ヲ保留(借款其ノモノハ共同ニ応セサルヘカラス)スル位ノコトニ止マルヘシ從テ日本カ勢力範圍撤廃案ニ賛成スルモ之カ為メ受クル実害ハ差シテ大ナルモノニ非ス且ツ他國ノ勢力範圍撤廃ニ伴フ活動区域ノ拡大殊ニ揚子江沿岸ノ開放ハ帝國ニ執リ却テ利益ヲ齎スコトトナルヘシ次ニ勢力範圍ヲ撤廃スルモ滿蒙ニ於ケル日本ノ国防並國民ノ經濟的生存ノ安全ヲ害スルカ如キコト等迄モ挙ケテ外國ノ自由活動ニ委セムトスル趣旨ニ非サルヲ以テ此ノ点ヲ明確ニ為シ置クノ必要アルヘ

リ見ルモ又諸般通信關係頗ル緊密複雑ナルモノアリテ到底他列國ニ比スヘカラサルモノアルニ鑑ミ支那郵便制度改善セラレ外國人ノ通信ノ安全保障セラルル曉ニ至ラサレハ本件ヲ実行シ難シ尙郵便局撤廃ノ結果支那郵政權ニ相当發言權ヲ有スル仏國側ノ勢力ヲ増大スルカ如キ結果ヲ招クコトナキハ特ニ注意ヲ要スル問題ナリ

七 居留地ノ撤廃

支那ニ於ケル外國居留地ノ多クハ既ニ基礎定マリ居留民モ其ノ業ニ安ンシ居レル次第ニテ今日直ニ之ヲ撤廃スルニ於テハ種々ノ弊害ヲ生スルニ至ルヘシ從テ内地雜居自由トナリ支那ノ法權ニ服スルモ生命財産ノ安固ヲ確保セラルルカ如キ状況ニ達シタル後ニ於テ始メテ撤廃セラルヘキモノナリ

八 不割讓約定ノ廢棄

不割讓約定ハ元來支那ノ領土保全ニ適ヘル措置ナルモ他方面勢力範圍主張ノ一根拠トセラレタル次第ニテ今後支那カ自ラ其ノ領土ヲ保全スルノ實力ヲ具備スルニ至ラサルニ先タチ之ヲ撤廃スルトキハ領土保全ノ本義

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

シ

五 在支外國警察官ノ撤退

主トシテ問題トナルハ支那内地ニ派遣若クハ駐屯シ居レル警察官ナリ右ハ外國人ノ生命財産ノ安全ヲ保護スル必要上已ムヲ得サルニ出テタル權宜自衛ノ手段ニ外ナラス別ニ條約上ノ根拠アル次第ニ非サルヲ以テ苟モ外國人ノ生命財産ノ安全ニシテ確實ニ保持セラルニ至ラハ之ヲ撤去スルコト至当ナリ又開放地ニ於ケル外國警察官ノ駐屯ハ領事裁判ニ付隨スルモノニ付同裁判ノ撤廃ト共ニ撤去セラルヘキモノナリ尙支那ニ於ケル警察官ノ最モ多數ナルハ日本ナルモ之レ居留民ノ數他國ニ比シ著シク多數ナルニ伴ヒ自然ノ結果ナリ

六 在支外國郵便局ノ撤廃

支那ノ郵政漸次改善セラレ万国郵便同盟條約ニモ加入スルニ至リ頻リニ外國郵便局ノ撤廃ヲ希望シ居レル次第ニテ遠カラス列國ニ於テ支那ニ於ケル外國郵便局ノ撤廃ニ付好意的考慮ヲ加フヘキ時機來ルヘク殊ニ支那政府ノ公認シ居ラサル郵便施設ノ如キハ最先ニ考慮ヲ要スル問題ナリト雖日本ハ支那ニ於ケル在留民ノ數ヨ

ニ反スルカ如キ結果ヲ招ク虞ナシトセス乍去他ノ列強ニ於テモ領土保全ノ主義ヲ益々鞏固ニスルト共ニ不割讓約定ノ如キハ之ヲ廢止スルノ意嚮ナルニ於テハ日本ニ於テモ考慮ヲ加フルヲ辭セサルヘシ而シテ不割讓約定ノ重ナルモノハ英國ノ揚子江沿岸、西藏、仏國ノ雲南、廣東、廣西、日本ノ福建、山東ニ於ケル各不割讓約定之ナリ

九 支那ノ行政自主權回收問題

關稅及塩稅ハ外國借款ノ担保トナリ且ツ外國借款ノ元利ヲ支払タル剩餘額ハ年々四千万元ヲ超エ支那政府歳入ノ最モ主ナルモノニ屬シ又郵便電信制度ハ在留外國民ノ日常生活ニ極メテ密接ノ關係アリ然ルニ今支那側ノ手ニ移スモ今日ト同様ノ成績ヲ挙げ得ルコトハ到底期待シ難ク塩稅關稅ノ收入ヲ減少シ營ニ支那政府自身ノ歳入ニ益々欠缺ヲ生セシムルノミナラス外國借款ノ担保ヲ薄弱ナラシメ又郵便電信ノ確實ヲ欠クニ至ラハ在留外國人ノ被ル不利不便ハ特ニ絮說ノ要ナカルヘシ之支那側カ行政自主ノ能力ヲ具フルニ至ルヲ俟ツノ必要ナル所以ナリ

十 関税自主権回収問題

支那ハ外国トノ条約ニ依リ関税ヲ五分以上ニ増徴スルコトヲ許サレサルノミナラス物価ノ騰貴ニヨリ實際ニ於テハ五分以下トナリ居リタル為メ支那ノ対独参戦ノ一条件トシテ列国ニ於テ現実五分ノ主義ヲ認メ協定ノ成立ヲ見タルカ更ニ其後価格変動ノ理由ニ拠リ支那ヨリ再改正ノ提議ヲ為シ目下同国ト各国トノ間ニ商議中ナリ此外英支間条約ニヨリ関税ヲ一割二分五厘ニ増スト共ニ釐金ヲ撤廃スヘキコトヲ約シアリ之カ実行ニ付テモ十分各方面ニ亘リ調査研究ヲ要スル次第ニテ殊ニ関税自主権ヲ認メ其ノ任意ニ税率ノ制定ヲ許スカ如キハ到底一朝ニシテ実現シ得ヘキコトニ非サルヤ多言ヲ要セス

十一 支那借款鉄道統一問題

支那鉄道国際管理案ハ延テ支那ノ財政乃至行政共同管理案提唱ノ形勢ヲ招致スルカ如キ虞アルノミナラス同案ノ裏面ニハ往々南滿州鉄道ノ如キ外国管理鉄道回収案ヲ含ムコトアリ從テ若シ今回ノ會議ニ於テ支那鉄道共同管理案ノ提出ヲ見ルカ如キ場合ニハ日本トシテハ

栽培幾多ノ地方ニ行ハレ又南北両方面ヨリ阿片ノ同国ニ密輸入セラルルモノ少カラサルヲ以テ支那自身ノ阿片栽培及密輸入ヲ嚴重取締ルノ方途ヲ講シ列国ト共同シテ其ノ目的ノ達成ニ努ムルニ非サレハ成績ヲ挙クルコトハ不可能ナリ

(丙) 會議ニ於テ変更ヲ許ササル事項

一 山東問題

山東問題ノ經過ハ從來屢々公表セル通りナルカ曩ニ日本政府ヨリ支那政府ニ提出セル措置案大綱ハ明確ヲ欠ケル点アリトシ恰モ之ニヨリ日本ハ其ノ名ヲ棄ツルト共ニ細目ノ協議ニヨリ其ノ実ヲ收メトスルモノナルカ如キ印象ヲ米國支那其ノ他各方面ニ与ヘ居レルカ之レヲ唯抽象的ニ弁明スルノミニテハ其ノ效果甚タ少カルヘキニ付既定方針通公正寛容ヲ本旨トスル細目案ヲ取急キ審議中ナリ

二 大正四年日支条約效力問題

大正四年日支条約ニ對シ支那官民中其ノ取消乃至廢棄ヲ主張シ居レルモノ尠カラサルモ國際法上ノ理論ヨリスルモ条約ノ神聖ヲ保持スル点ヨリ見ルモ將又帝國ノ地位ヨリ云フモ會議ニ於テ同条約ヲ審査シ效力其ノモ

先ツ範圍ヲ外国借款鉄道ニ局限スル程度ノ支那鉄道統一案ヲ以テ応酬スルコト然ルヘシ尚此ノ程度ノモノナラハ鉄道系ニ依ル外国勢力範圍ノ色彩ヲ薄クシ交通上ヨリ觀タル鉄道ノ統一ヲ完クスルノ利便アルヘシ

十二 阿片問題

支那ニ於ケル阿片問題ハ列国ニ於テモ夙ニ支那ノ禁煙方針ヲ援助シ来リタルカ阿片ノ輸入、販売、栽培製造未タ全禁ノ域ニ達セス為メニ支那ヲ害スルコト多大ナリ帝國ニ於テモ從來専ラ人道上ノ見地ヨリ支那ニ於ケル阿片取締ニ付必要ノ措置ヲ講シ来リタルモ關東州青島及台灣ニ於テハ從來或程度迄阿片ノ製造販売及吸飲ヲ公認シ居リタル為ニ列国ノ非難ヲ蒙リ從テ對支一般問題ニ付不利益尠カラサリシカハ大正八年閣議ニ於テ之カ撤廃ノ主義ヲ決定シ其後一定期間ニ關東州及青島ノ阿片制度ヲ全廢スルコト及其ノ実行ニ付テハ關係官庁ニ於テ相當処置スルコトニ決定シタリ然ルニ其後關係官庁ニ於テハ右方針ニ依リ実施シ居レルモ未タ充分ノ成績ヲ挙クルニ至ラス帝國政府トシテハ固ヨリ既定方針ノ遂行ヲ期シタキ意嚮ナルモ支那ニ於テ最近阿片

ノニ影響ヲ及ボサムトスルカ如キ主張ニハ絶対ニ同意スルヲ得ス乍去同条約ニ付會議ニ於テ論議ヲ招クカ如キ場合ニハ單ニ既成事實ノ故ヲ以テ之カ論議ヲ避クルコトナク篤ト事態ヲ説明スルコト然ルヘキ元來大正四年ノ条約ノ締結ハ日独戦争ニ依リ發生シタル時局ノ善後ヲ図リ日支兩國ノ親交ヲ阻碍スルノ原因タルヘキ諸種ノ問題ヲ解決シ以テ兩國友好關係ノ基礎ヲ固クセムコトヲ期スルト同時ニ南滿州及東部内蒙古地方ニ於ケル我地位ヲ明確ナラシメ以テ從來日支兩國ノ間ニ諸種ノ問題ヲ生シ延テ兩國ノ國民的感情ニ好マシカラサル影響ヲ与ヘタル紛因ヲ一掃セムコトヲ庶幾シタルニ基キタルモノニシテ畢竟兩國ノ親交ヲ増進シ東亞ノ平和ヲ確保シ以テ一面欧州戦争ニ寄与セムコトヲ期シタルモノニ他ナラス且右日本ノ要求カ何等侵略の野心ニ出テタルニ非サルハ条約ノ内容ヲ公正ニ解釈判断セハ自ラ明瞭ナル次第ナルモ當時一種ノ宣伝ノ結果甚タシク誇張セラレ且帝國ノ全然念頭ニナキ各種ノ意味ヲ付セラルルニ至リタル次第ニテ殊ニ種々非難ノ中心トナリ居レル最後通牒ノ件ハ支那膠州灣ノ無条件還付ヲ要求

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

スル等本問題解決ニ対スル誠意ヲ欠キタル結果日本ハ該交渉ヲ無意味ノモノニ終ラシメ東亞ニ於ケル日本ノ地位ヲ危殆ナラシムルモ尚之ニ甘スヘキカ又ハ最後通牒ニヨリ支那ノ反省ヲ促カスカノ二者其一ヲ選フノ立場ニ在リシナリ (大正四年五月七日最後通牒ニ関スル日本政府声明書参照) 尚會議ノ情勢如何ニ依リテハ更ニ一步ヲ進メ大正四年条約実施ニ関スル帝國政府ノ方針ヲ漸次寛容トナリ現ニ左ノ如キ意嚮ヲ有スルコトヲ明ニスルモ差支ナシ

(イ) 右条約ニ依リ帝國力満蒙ニ於テ保有スル優先權中

(一) 鉄道借款優先權

(二) 課税担保借款優先權

ニ付テハ支那ハ南滿州及東部内蒙古ニ於テ鉄道敷設ニ付外資ヲ要スルトキ又ハ此等ノ地方ノ各種課税ヲ担保トシテ外国借款ヲ起ストキハ先ツ日本資本家ニ相談スルコトト為リ居ル処日本ハ新借款団成立ノ際日本ノ經濟的生存及国防ノ安全ニ影響ヲ及ボササル限り一切ノ借款ヲ右団体ノ範圍内ニ提

供シタルヲ以テ前掲利權モ事實上多クノ場合ニ於テ新借款団ノ範圍内ニ包含セシムルコトト為リタルニ付此ノ上強テ右優先權ヲ固持スルハ実益尠カルヘシ

(三) 政治財政軍事警察等ノ顧問傭聘優先權

ニ関シテハ支那ヲシテ此等顧問ヲ傭聘スル場合ニハ日本人ヲ最先ニ傭聘スヘキコトヲ約セシメタルニ止マルヲ以テ支那側ニ於テ外人顧問傭聘ノ意思ナキトキハ何等実益ナキ取極ニシテ現ニ同条約締結後日本人顧問ノ傭聘セラレタルモノ僅ニ二三名ニ過キス且之ヲ實際ニ顧ミルニ仮令此ノ種ノ約束存在セストモ日支ノ關係ニシテ一層改善セララルニ至ラハ必要ニ際シ日本人顧問ヲ入ルルコトハ決シテ難事ニ非ス滿州カ日本ニ取リ極メテ緊密ノ關係アルコトハ列國ノ已ニ諒認シ居レル処ニシテ万一重要ナル地位ニ外國人ノ傭聘ヲ見ムトスルカ如キコトアラハ本取極ノ有無ニ拘ハラス日本ヨリ抗議ノ途アルヘシ

(ロ) 所謂第五号ニ関スル留保

所謂第五号ハ大正四年日支交渉中最モ世界ノ物議ヲ醸シタル処ニシテ其ノ留保ヲ基礎トシテ支那側トノ間ニ交渉ヲ開始スルカ如キコトアラハ再ヒ当年ノ論議ヲ招クコト疑ナク當ニ目的ノ貫徹ヲ期シ難キノミナラス大局上極メテ有害ナリ果シテ然ラハ斯ル留保ハ之ヲ採用セサルヘキ旨声明スルコト却テ得策ナリ但シ右ハ第五号ノ留保ヲ採用セスト云フニ止マリ將來第五号ノ規定ト同種ノ問題ニ付別個ノ見地ヨリ支那側トノ間ニ交渉ヲ開クコト迄モ自制セムトスル趣旨ニ非サルコト勿論ナリ

三 關東州租借地問題

列國力支那ニ於テ有スル租借地ハ我國ノ關東州ノ外英國ノ威海衛、九竜及仏國ノ広州灣ナルカ来ルヘキ太平洋會議ニ於テ威海衛等ノ租借地還付問題ノ提議アルコト無キヲ保セスト雖英仏ノ保有スル前記三租借地ハ單ニ他ノ租借地ニ対スル權衡ヲ口実トシテ獲得シタルニ過キサルニ反シ關東州ハ日本ノ國運ノ賭サレタル日露戰爭ノ結果取得セルモノニテ全然取得ノ事由ヲ異ニスルノミナラス英仏等ノ租借地ハ各自國人ノ在住僅ニ数

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

百ニ出テサルニ關東州ニハ帝國居留民五万以上ニ達シ之等多數邦人ノ經濟的利益保護ノ見地ヨリスルモ將又帝國国防ノ關係ヨリ見ルモ帝國政府ハ同租借地ノ期限前返還ヲ今日ヨリ予定スルカ如キ主張ニハ到底贊意ヲ表スルヲ得ス

四 滿州鉄道 (安奉線ヲ含ム) 中立乃至回收問題

支那ニ於ケル外國ノ所有乃至管理スル鉄道ハ南滿鐵道 (日) 山東鐵道 (日) 東支鐵道 (露) 雲南鐵道 (仏) 及広東九竜鐵道ノ一部 (英) ナルカ今回ノ會議ニ於テハ往年「ノックス」ノ滿州鐵道中立ニ関スル提議ト類似ノ提案ナキヲ保ス能ハサル処南滿鐵道ハ日本ノ國運ヲ賭セル日露戰爭ノ結果日本ノ手ニ歸シタルモノニテ滿州ニ於ケル經濟的經營ノ根幹タルノミナラス國防上重大ノ關係ヲ有シ現ニ我滿鐵ノ地位ニ対シテハ對支新借款組織ニ當リ關係列國ヨリ明確ナル保障ヲ得テ其ノ期限ノ到来前南滿鐵道ノ「ステータス」ヲ變シテ或ハ之ヲ中立トシ或ハ之ヲ日支合弁トシ或ハ之ヲ支那ニ回收セシムル等ノ提案ニ対シテハ帝國政府ニ於テ絶對ニ考慮ヲ加フルヲ得ス

(丁) 石井「ランシング」協定問題

本協定ノ所謂特種利益ノ意義ニ関シ日米間ノ相違アリ米
 国側ハ之ヲ輕ク解シテ経済的ノ意味ニ過キスト為シ日本
 側ハ之ヲ重ク解シテ其ノ直接ノ目標ヲ政治的ノモノト為
 スモ強テ之ヲ政治的若クハ経済的ノモノト限ルノ要ナク
 畢竟地理的接壤ノ関係ヨリ生スル特殊関係ナリト解スル
 コト至当ナリ元來該協定ハ既存ノ了解乃至自然的事態ヲ
 確認セルモノニ過キス其ノ特ニ文書上ノ協定ヲ見タルハ
 流布セラレタル有害ナル風説ヲ一掃センカ為日米兩國政
 府ノ等シク懷抱スル希望及意嚮ニ付更ニ公然ノ宣言ヲ為
 セルモノニ外ナラス從テ仮令之ヲ撤廃スルモ日支兩國カ
 地理的ニ相接触スルノ結果日本カ現実ニ支那ニ對シテ有
 スル特種關係ハ之カ為メ消滅ニ歸スルモノニ非サルハ勿
 論ナリ又今更ニ右協定ノ撤廃ヲ宣言セハ世上之ニ對シ種
 タノ意味ヲ付シ日米兩國ノ關係ニ疑惑ヲ挾ミ無益有害ノ
 紛糾ヲ生スル虞アリ之レ兩國親善ノ確立増進ヲ期スル所
 以ニ非ス從テ帝國政府ハ今回ノ會議ニ於テ此ノ協定ニ言
 及スルヲ欲セサルモ万一米國側ニ於テ之カ廢棄ヲ希望ス
 ルニ於テハ之ニ同意スルノ外ナシ

西比利亞駐兵ニ關連シテ從來我方ニ對シ右黨援助等内
 政干渉ノ非難ヲ加ヘタルモノアルモ右ハ事實ノ真相ヲ
 誤レルモノニシテ我方ハ露國ノ内争ニ對シテハ嚴ニ中
 立ノ態度ヲ持シ一黨一派ヲ援助スルカ如キコトハ力メ
 テ之ヲ避ケタリ又我西比利亞駐屯軍ノ公安維持、武装
 団体禁止、列車抑留等ノ措置ニ對シ行政權侵害トシテ
 攻撃シタルモノアルモ此等ハ何レモ露西亞側トノ諒解
 ニ基キ又ハ軍ノ存立上必要已ムヲ得サルニ出テタルモ
 ノナリ

左ニ五六ノ事實ヲ例示スヘシ

(イ) 千九百十八年八月共同出兵當時沿海州ニ於テハ
 社会革命党「デルベル」政權ト右党「ホルワット」
 政權トノ間ニ政争行ハレ居タルニ對シ我出先官憲ハ
 嚴正中立ノ態度ヲ持シ好意的ニ兩者ノ任意妥協ニ尽
 カシタル後「オムスク」ニ於ケル「ウオロゴツキー」
 全露假政府トノ妥協ニ助力シタルニ過キス

(ロ) 同年十一月「コルチャック」ハ英國等ノ援助ニ
 ヨリ「オムスク」政權ヲ掌握シタルカ當時後貝加爾
 地方ニ「セメヨノフ」アリテ兩者間ニ政争ヲ演スル

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

(戊) 南方代表者ノ件

目下広東政府ハ米國ニ代表者ヲ派遣シ北京政府否認ニ等
 シキ宣伝ヲ行フト共ニ北京政府ヲ以テ日本政府ノ傀儡ト
 為シ山東問題二十一箇条問題ニ付盛ニ排日の言動ヲ逞シ
 居レルヲ以テ日本カ進テ南方代表者ヲ否認スルカ如キ主
 張ヲ為ストキハ益々此ノ氣勢ヲ煽フル虞アルニ付該代表
 者カ會議ニ列席スルノ資格ナキコトヲ主張スルコトハ之
 ヲ避クルコトト致シタシ

第五 西比利亞問題

(甲) 進テ主張スヘキ事項

(乙) 討議ニ異存ナキ事項

一 領土保全

領土保全ハ主義上之ニ賛意ヲ表スルコト差支ナキモ薩
 哈噠占領及其前後処分ノ關係ニ関シ極メテ微妙ナル
 關係存スルヲ以テ此点ハ篤ト留意ヲ要ス

二 行政權保全

本問題若ハ他ノ問題討議ノ際會議ノ情勢上説明ノ要ア
 ル場合ニハ左記ニ基キ適宜説明ヲ与フルモノトス

(一) 西比利亞出兵關係

ヤ我方ハ単ニ公平ナル平和的仲介者トシテ右兩者ノ
 和解ニ尽力シタリ

(ハ) 「コルチャック」カ其極東代官軍務補佐官トシ
 テ派遣シタル「イワノフリック」將軍及其後任ノ兼
 總督トシテ任命シタル「ロザノフ」將軍ハ何レモ極
 左的政治ヲナシタル結果民心離反シ千九百十九年九
 月社会革命党一派カ「ガイダ」將軍ヲ推シテ政變ヲ
 起シタルニ際シ日本軍ハ連合軍ト共ニ嚴正中立ヲ守
 レリ當時「ガイダ」將軍側ノ失敗ニ歸シタルカ我軍
 ノ公正ナル態度ハ同派ノ者モ之ヲ認メ居レリ

(ニ) 千九百十九年十一月「コルチャック」没落シ極
 東ニ於ケル共產党ハ社会党穩和派ト結合シテ翌年一
 月末反「ロザノフ」政變ヲ起シタルカ當時日本軍ハ
 社会党側ヲ抑圧スルコト易々タリシニ拘ラス飽迄中
 立不干渉ノ態度ヲ持シタル為「ロザノフ」失脚シテ
 「メドウヂエフ」政權ノ樹立ヲ見ルニ至レリ

(ホ) 千九百二十年秋極東各政權カ統一ヲ企図スルヤ
 我方ハ極東政情ノ安定ヲ希望スル公正ノ見地ヨリ其
 運動ニ何等干渉スルコトナク各政權ニ對シ等シク交

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

通通信等好意的便宜ヲ提供セリ

(ヘ) 「セメヨノフ」援助ハ元来英仏等ノ主唱ニ基キ連合側ノ共同シテ行ヘル処ナルカ他ノ諸国カ幾何モナクシテ之ヲ中止シタルニ当ノ我方ハ從來ノ情誼ニ顧ミ暫時若干ノ援助ヲ持續シタルモ其全局ノ形勢ニ鑑ミ全然之ヲ中止シタリ即チ千九百二十年七月帝國軍隊後貝加爾ヲ撤退スルヤ全ク彼ヲ其運命ニ委ネ何等援助干涉ヲ加ヘス其ノ後彼ハ逃レテ旅順ニ入りシカ我官憲ハ嚴重ニ監視シテ苟モ同地ヲ其策源地タラシムルカ如キコトナク本年五月「メルクロフ」政変ニ乘シ彼カ再ヒ沿海州ニ入ラント企図スルヤ我方ハ百方之ヲ諫止シ其聴カスシテ旅順ヲ出発スル際断然彼ニ何等ノ援助ヲ与ヘス且ツ一身上ノ保護ヲモ与フルコト能ハサルコトヲ言明シ其終ニ浦潮ニ入港スルヤ同地域官憲又同様ノ趣旨ヲ彼ニ通告シタリ

(ト) 浦潮政変

千九百二十一年五月「カツベリ」及「セメヨノフ」ノ殘党カ右党側ト提携シテ浦潮地方ニ政変ヲ起シ「メルクロフ」ヲ首班トスル沿黒竜政府ナルモノヲ

政權ノ侵害トナスヲ得ス試ニ本件占領ニ関スル主ナル非難ト之ニ対スル反駁トヲ左ニ記述セン

(イ) 非難一、尼港事件ノ基因ハ尼港駐兵ニアリテ列国共同出兵ニ関連ス薩哈噠占領ハ共同出兵ニ関スル協調ノ精神ニ反スルモノナリ(大正十年五月三十一日付米國國務卿覽書)

弁 駁

尼港駐兵カ同地居留民ノ保護以外西伯利亞ニ於ケル列国共同出兵ニ伴フ軍事の必要ニ出テタルハ明ニシテ(「尼港事件経過」参照)從テ右駐兵カ共同出兵ニ関連スルハ疑ナシト雖薩哈噠占領ハ全ク別個ノ問題ニ屬シ過激派軍隊カ日本守備隊ノミナラス同地ニ於ケル我居留民ノ大多数ヲ虐殺シタルニ基クモノニシテ而モ右虐殺カ我守備隊ノ挑戰ニ出ツルコトナク全然過激派軍隊ノ不法且殘忍ニ基因セルモノナル以上(後掲非難ニ対スル弁駁参照)虐殺ノ發生ト共同出兵トノ間ニハ何等ノ因果關係ヲ認ムルヲ得ス從テ尼港事件ノ善後方法ハ帝國政府單獨ニ之ヲ決定シ得ヘク右方法ノ採択ニ付共同出兵ニ関スル協定又ハ宣言

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

二二四

樹立シタルニ際シ日本ハ全然中立不干渉ノ態度ヲ維持シタリ但シ該政変ニ際シ日本軍ノ双方ノ武装ヲ解除シタルハ前年浦潮政府トノ間ニ締結シタル協定ニ基キ軍ノ自衛上並ニ駐兵地域内ニ於ケル秩序維持ノ趣旨ニ出テタル至当ノ措置タルニ外ナラス

(チ) 千九百二十一年ノ初日本軍ハ烏蘇里鐵道列車ヲ抑留シ内政干涉ヲ敢テシタリトノ非難起リシカ右ハ一ニハ日本ノ出資ニヨリ購入シタル鐵道材料ノ連合國管理区域外ニ搬出セラルルヲ防止シ二ニハ鐵道材料ノ散逸シテ日本軍ノ存立ヲ危クスルニ至ランコトヲ恐ルルニ出テタル自衛の措置ニ外ナラス前者ハ鐵道共同管理ノ關係上至当ノ事ニ屬シ後者ニ付テハ曩ニ浦潮政權トノ間ニ了解成立シ居リシモノナリ

(ニ) 薩哈噠占領關係

薩哈噠州二三地点ノ占領ハ尼港事件ノ善後処置ニ関シ實際上交渉シ得ヘキ政府ナキ為メ已ムヲ得サルニ出テタル一時的の措置ニシテ國際法上認メラレタル行為タルハ勿論占領地ニ於ケル軍ノ行動及軍政実施ハ占領ノ法規慣例ニ準拠スルモノニシテ之ヲ以テ内政干涉若ハ行

ニ拘束セラルヘキ理由ナシ

(ロ) 非難二、薩哈噠占領ハ其本質ニ於テ不法ナリ即チ

(1) 薩哈噠占領ノ基因タル尼港事件ハ駐留軍隊ノ内政干涉等其挑発ニヨリ惹起セラレタルモノナリ(露國側新聞論調)

(2) 尼港事件ハ匪徒ノ行為ナルヲ以テ中央政府其責ニ任スヘキニ非ス從テ薩哈噠占領ハ不当ナリ(大正九年七月十六日付米國國務卿半公信)

(3) 本件占領ノ性質トシテ日本政府ノ説明スル平時復仇ハ相手國政府ノ國際義務違背ニ對シ之ト交渉ヲ尽シタル後始メテ為シ得ル行為ナルヲ以テ右ノ条件ニ合セサル薩哈噠占領ハ國際法上平時復仇ト認ムルヲ得ス

弁 駁

(1) 我守備隊ハ「チエック」軍救援ノ目的達成ノ為メ尼港ニ駐留セルト共ニ居留民保護ノ為メ百方同市ノ安寧秩序ヲ維持セムコトヲ努メ大正九年二月ニ及ヒテハ右ノ目的ヲ以テ赤衛軍ト協定ヲ為シタリ

(「尼港事件経過」参照) 然ルニ赤衛軍ハ右協定ニ背キタルノミナラス日本軍ノ名譽及存立ト相容レサル武装解除ヲ要求シタルヲ以テ両者ノ衝突ヲ見ルニ至リタルモノニテ尼港守備軍ハ何等不法ノ行為ニ出テタルニ非ス本件虐殺カ偏ヘニ赤衛軍ノ残忍性ニヨルモノナルハ尼港及其ノ他各地ニ於ケル其行動ニ徴スルモ明白ナリ

(2) 尼港虐殺ノ主動者タル露人カ赤衛軍ノ一部トシテ軍隊組織ヲ有シタルコトハ(一)千九百二十年七月九日「ニコライエフスク」地方臨時革命本部ノ命令ニヨル陸軍衛戍各管区ノ代表者及「ケルビ」村労働者ヨリ構成セル国民裁判所ノ本件首魁「トリヤビーツイン」「レベデワ」等ニ対スル裁判判決中「トリヤビーツイン」ハ「ニコライエフスク」地方赤軍司令官トシテ在職中云々ノ記載アルコト(二)同年五月二十日刊行尼港赤軍司令部機關紙「ブリズイフ」尼港赤軍司令部幹部トシテ「トリヤビーツイン」「レベデワ」等ノ姓名ヲ記載シアルニ徴シ明カナリ

関スル法律ノ效力ハ原則トシテ之ヲ停止スルヲ得ス只裁判官職務ヲ拒ミ又ハ住民若ハ裁判官ノ挙動ニヨリ已ムヲ得サル場合ハ占領国ニ於テ普通事件ニ関スル自己ノ特別裁判所ヲ設ケ又ハ軍事裁判所ヲシテ普通事件ヲ兼轄セシムルヲ得又普通裁判所ニ於テ適用セラルヘキ民事刑事ニ関スル法律ハ原則トシテ領土所屬国ノ法律タルヘキナリ而シテ薩哈噠占領軍ハ前述ノ如キ手続ヲ尽シタル後派遣軍法院ヲ設置シタルモノナリ又民事令ニハ本令ニ特別ノ規定アル場合ノ外露国ノ法令慣習ヲ参照シ内国即チ日本ノ法律ニヨルヘキ旨ヲ定メ原則トシテ日本法律ヲ適用スヘキコトヲ規定セルハ占領ニ関スル国際法規ニ反ス

(2) 占領軍ノ權力ハ占領ノ基本觀念タル一時的性質ニ順応スヘキ拘束ヲ有シ絶對ニ支障ナキ限り占領地ノ現行法律ヲ尊重スヘキ義務ヲ有スルト共ニ国有財産ノ管理ニ就テハ利益權者ニ過キサルモノト考慮シ此等ノ財産ノ基本ヲ保護シ且ツ利益權ノ法則ニヨリ之ヲ管理スヘキナリ(陸戦法規第五十五

(3) 露国側ニ當時交渉スヘキ政府ナク從テ薩哈噠占領ハ変態ノ平時復仇ト目スヘキモノニシテ国際成例ニ乏シカラス(薩哈噠占領ノ法理先例参照)

(ハ) 非難三、薩哈噠占領ノ地域不当ニ広汎ナリ(大正九年七月十六日付米国國務卿半公信)

弁 駁

北樺太ハ尼港ト同一行政区画ニ屬スルノミナラス尼港ノ氣候及地理的關係上同港ヲ確實ニ占領スル為ニハ北樺太ノ要地ヲ占領スルノ必要アルノミナラス居留民保護及漁業保護ノ為ニモ必要ナリ「マゴ」「ソフィスク」「デカストリー」ノ占領モ右ト同一ノ理由ニ基ク

(ニ) 非難四、薩哈噠占領ノ施設ハ占領ノ性質上許容セラレタル範圍ヲ越エ永久的施設ノ觀アリ(大正九年十一月十六日付英國大使來信及大正十年五月三十一日付米国國務長官覺書) 即チ占領地域施政ニシテ戰時占領ニ関スル国際法規ヲ準用セルモノナリトセハ「薩哈噠占領ニ関スル方針及施設状況」(参照)

(1) 司法ニツキ普通裁判所ノ職務執行及其ノ適用ニ

条) 然ルニ右軍令中鈹業權ノ移轉ヲ禁止スルノ条項ヲ有スル鈹業取締令、建物ノ建設ヲ目的トスル官有土地貸下規則等或ハ權利ノ根本ニ関シ或ハ一時的權力行使ノ本質ト相反スル法令アリ殊ニ亞港市街建築調査委員設置規定ノ如キ占領軍ノ施設トシテ極テ不適当ナルモノニシテ永久的ノ占領ヲナサントスルノ觀アリ

(3) 占領軍ハ支障ナキ限り現行法律ヲ尊重スヘキ義務アル処新ニ制定セラレタル供託令、公証令、不動産証明令、利息制限令等ノ如キモノニ該当スル露国法令ハ果シテ占領地ニ存在セサリシヤ若シ存在シタリトスレハ新ニ此等ノ法令ヲ公布セルハ妥当ニ非ス

弁 駁

(1) 特別法院設置ノ如キハ露国人中裁判官トシテ適任者ナカリシニヨリ止ムヲ得サルニ出テタリ

(2) 鈹業權移轉禁止ノ如キ当分ノ間之ニ就キ制限ヲ加ヘタルモノニシテ経過の規定ニ過キス又土地貸下ノ如キ借受人ノ危険ニ於テ為スモノナリ

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (一)

- (3) 露国ノ法令ニシテ存在不明ナルモノアルト共ニ其存在明カナルモノモ著シク現状ニ適合セス從テ新規定ヲ必要トセリ又占領地域内ニハ日本人ノ数露国人ヨリ多キニヨリ直ニ露国法律ニ依ラシムルコト困難ナリ

三 門戸開放——商業及産業上ノ機会均等

極東露領ニ於テハ産業上外人ニ対スル制限尠カラス是前露政府カ右地域ニ対シ軍事的植民地の施設ヲ為シタルニ基因スルモノナルヲ以テ其門戸ヲ開放シ此等制限ヲ撤廃セシムルト同時ニ或一國或ハ一國民カ同地方ニ於テ何等カノ特殊又ハ独占的ノ利益ヲ獲得スルコトヲ得サル様機会均等主義ヲ確立スルコト極メテ時宜ニ適スルモ例ヘハ我漁業權ノ如キ列國ニ於テ異議ナキ條約上ノ既得權 (Recognized vested treaty rights) ハ之ヲ除外スルヲ要ス

四 西比利亞共同管理

西比利亞共同管理ノ端ヲ開クトキハ極東ノ政局ヲ一層複雑ナラシムルノミナラス帝國ノ對露施設ハ事毎ニ列國ノ容喙掣肘ヲ受クルニ至ル恐アルヲ以テ之ニ反對ス

陸軍 荒木大佐 児玉中佐

海軍 末次大佐 原大佐

外務 堀内書記官 岸田事務官

外務省ノ人員ハ増加スルコトアルヘキ旨留保シアリ

二 各省ヨリ提出スル問題ヲ外務省ニ於テ取纏メ予メ之ヲ各省委員ニ配布シタル上會議ヲ開クコト

三 各省ヨリ提出スル問題ハ上議ノ際當該省委員ヨリ必要ナル説明ヲ加ヘ且問題ニ由リテハ其決定方針ニ関スル原案ヲ添付スルコト

四 全權事務所ノ編成、人員、宿舍、予算等ニ関スル事項ハ外務省ニ於テ原案ヲ作成スルコト

第三 各省ヨリ明日午前中ニ問題表ヲ外務省ニ送付シ各省幹事ニ於テ協議整理ノ上來ル八月十八日午後一時第二回打合会ニ之ヲ上程スルコトナレリ

(別紙一)

出席者氏名

陸軍

尾野次官 菊池次長

菅野軍務局長 田中第二部長

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

ルコト必要ナルカ反對ノ理由ハ之ヲ内政不干渉主義ニ求ムルヲ得策トス

五 西比利亞鐵道共同管理

特ニ説明スヘキ事項ナシ

六 「チタ」政府承認問題

特ニ説明スヘキ事項ナシ

(丙) 會議ニ於テ審査裁決ヲ許ササル事項

一 西比利亞撤兵問題

行政權保全ノ項参照

(付記一)

ワシントン會議準備打合會記事

(一)

華府會議準備打合會第一回記事

第一 大正十年八月十六日午後二時築地水交社ニ於テ開會ス出席者氏名別紙ノ通

第二 決議事項左ノ如シ

一 議案準備、事務連絡等ニ當ラシムル為關係各省ヨリ若干名ノ幹事ヲ指名スルコト、此ノ決議ノ結果當日指名セラレタル者次ノ如シ

金谷第一部長 林大佐

荒木大佐 二宮大佐

児玉中佐 田代少佐

海軍

井出次官 安保次長

堀内軍務局長 加藤中將

齋藤第一班長 山梨大佐

野村大佐 末次大佐

原大佐

外務

埴原次官 山川平和事務局第一部長

芳沢亜細亜局長 松平欧米局長

堀内書記官 岸田事務官

(別紙二)

外務及陸海軍三省協議會ニ於ケル海軍ニ関スル事項

第一 會議ノ順序等ニ関スル事項

一 太平洋問題ト軍備制限問題トノ何レヲ先議スルヲ有利トスルヤ又ハ両問題ヲ同時ニ並行シテ討議スルヲ有利トスルヤ

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

二 海軍制限問題ニ関シテハ討議参加国ヲ局限スルヲ可トスヘキヤ

三 海軍制限問題ハ公開スルヲ可トスルヤ

第二 海軍軍備制限ニ関スル事項

一 海軍軍備制限ニ関シテ帝国ノ執ルヘキ態度如何
二 英米カ容易ニ一致点ニ到達セサル場合我国ハ中正ノ態度ヲ執ルヘキカ又ハ執レカノ一方ヲ特ニ支持スルノ必要アリヤ

三 制限ニ際シ帝国ノ保有スヘキ兵力ノ標準如何又我国ハ英米ヨリモ若干劣勢ナル兵力ノ保有ヲ声明主張スルヲ可ナリトセハ此ノ兵力上ノ欠陥ニ対シテ特ニ何等カノ保障ヲ英米ヨリ要求スヘキカ

四 航空兵力ノ制限ニ関シテハ如何

五 潜水艦廃止、毒瓦斯使用、航空機ヨリノ爆弾投下等ノ問題ニ対シテ帝国従来ヨリノ主張ヲ変更スルノ必要アリヤ

第三 太平洋及極東問題中海軍ニ関連スル事項

一 日英同盟継続問題トノ關係上此ノ際英国海軍ニ対シテ如何ナル態度ヲ執ルヘキカ

二 布哇、瓦無等ノ防備撤廃若ハ制限ヲ提議スルヲ有利トスルヤ又提議スルヲ可ナリトセハ制限問題討議ノ際ニ為スヘキカ又ハ太平洋問題ノ際ニ為スヘキカ

三 支那及西比利亞ニ於ケル各国ノ警備艦常置、海軍根拠地、港灣租借、航行權許可問題、造船所建設其ノ他通信機關若ハ飛行機ノ基地設定問題等提議サレタリトセハ之ニ対スル帝国ノ方針如何

(欄外註記)

八月十七日原海軍大佐ヨリ接受(堀内印)

(別紙三)

大正十年八月八日 陸軍省

太平洋問題研究員會議題案

第一 軍備制限ニ関スル重要問題集

- 一、軍備制限ノ実行ノ方法ニ関スル対案(別冊参照)
- 二、帝国ノ主張スヘキ最下限ノ陸軍常備兵額
- 三、徵兵制度撤廃問題
- 四、太平洋諸島防備撤廃問題
- 五、武器彈藥通商協約批准及國際中央局設置問題
- 六、兵器民營問題

七、軍備情況通告問題

八、軍備相互検証問題

九、戰時毒瓦斯使用問題

一〇、戰用器材平時貯藏量制限問題

一一、空中爆撃禁止問題

第二 極東ニ関スル重要問題集

一、支那ニ関スル事項

一、青島処分及ヒ山東鐵道問題

二、支那ノ独立及ヒ領土保全、門戶開放、機會均等主義

三、支那駐屯外國軍撤退問題

四、勢力範圍ノ撤廃問題

五、治外法權(領事裁判權)ノ撤廃問題

六、団匪事件賠償金免除問題

七、大正四年日支協約(二十一箇条)ノ破棄問題

八、租借地返還問題

九、外國郵便局、專管居留地、公使館区域ノ撤廃問題

一〇、支那駐在武官、応聘武官問題

一一、東支鐵道及滿鉄問題

一二、兵器供給問題

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

一三、列國ノ各種利權(鉱山、鐵道、無線、海電等)問題

一四、借款問題

一五、阿片問題

一六、關稅問題

二、朝鮮ニ関スル事項

一、朝鮮ノ独立又ハ自治承認

二、鮮人ノ待遇及不逞鮮人取締問題

三、耶蘇教宣教師待遇問題

三、西伯利及薩哈噠ニ関スル事項

一、堪察加問題

二、薩哈噠問題

三、機會均等、門戶開放主義

付各種利權問題

四、西伯利撤兵問題

五、西伯利、東支鐵道問題

六、松花江、黑龍江航行權問題

七、歐露勞農政府及知多政府承認問題

八、知多政府トノ通商問題

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

九、露国救済問題

第三 太平洋ニ関スル重要問題集

一、太平洋諸島防備撤廃問題

二、旧独領南洋諸島委任統治問題

三、「ヤップ」海電問題

四、比島独立問題

五、巴奈馬運河問題

六、太平洋交通問題 (海電、無線、國際航空路)

七、米大陸ニ於ケル機会均等門戸開放

八、移民及人種問題

九、米國ノ對墨政策

(欄外註記)

大正十年八月十七日兎玉中佐ヨリ接受 (堀内印)

(二)

華府會議準備打合せ第二回記事

第一、大正十年八月十八日午後一時築地水交社ニ於テ開会
ス出席者ハ前回各員ノ外上田海軍大佐ヲ加フ

第二、別紙ノ議題第一「會議全局ニ對スル態度」(八月十
七日三省幹事協議ノ上作成セルモノ)ニ関シ審議ノ経過

(本問題ハ原案第三問ノ前提トシテ討議シ度シトノ田
中陸軍少將ノ動議ニ依リ追加セラル)

帝國政府ハ國際連盟ニ對シ加入國トシテ之ヲ尊重スヘ
キコト勿論ナルモ既ニ華府會議ニ参加スルコトナリ
タル以上ハ同會議ノ結果連盟規約改正ノ必要生スルカ
如キコトアルモ敢テ之ヲ忌避スルノ要ナク又軍備制限
問題ニ関シ帝國トシテハ必スシモ米國ノ加入セサル連
盟ニ對スル態度ヲ華府會議ニ於テ固執スルニハ及ハス
ト思考ス

四、軍備制限大体ノ程度如何 (将来ニ於ケル軍備拡張ノ
制限ノミナラス既定計畫乃至現制ノ縮少ヲモ辞セサル
ノ覚悟ヲ以テ會議ニ臨ムヘキヤ否ヤ)

海軍ハ相對的の見地ニ基キ英米ト適當ノ割合ヲ維持スル
限り國際連盟第一回總會帝國代表及軍事委員會代表ニ
与ヘタル訓令ノ兵力ヲ固執スルノ要ナシト認メ今回ハ
場合ニ由リテハ既定計畫ノ縮少ヲモ辞セサルノ態度ヲ
以テ會議ニ臨ム覚悟ナリ

陸軍ハ右連盟總會ノ際決定シタル方針ヲ維持スル方針
ナリ但シ右ハ既定計畫ヨリモ縮少セル兵力ニシテ陸軍

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

大要左ノ如シ

一、帝國政府ハ會議ノ成果ヲ期待シテ之ニ臨ムヘキヤ否
ヤ

帝國政府ニ於テ本會議ノ成立ヲ助成スルノ積極的の方針
ニ出テ以テ此ノ機ヲ利用シテ帝國ニ對スル誤解反感ヲ
排除スルニ努ムルハ刻下我國國際的地位ニ顧ミ得策ト認
メラルル旨既ニ七月二十二日閣議決定アリタル次第ナ
ルヲ以テ我委員ニ於テハ右既定ノ方針ニ遵ヒ會議ニ臨
ムヘキコト勿論ナリ唯夫レ我方ニ於テ多少ノ譲歩ヲ為
スモ會議ノ成果ヲ挙クルニ力ムヘキヤ將又或程度ヲ以
テ折衝打切ト為スヘキヤハ各個ノ場合ニ就キ之ヲ決ス
ルノ外ナカルヘシ

二、帝國政府ハ主動的態度ヲ執ルヘキヤ否ヤ

第一問ニ對シ前記ノ如キ決定アル以上ハ我ニ於テ主動
的態度ヲ執ルヘキコト言フヲ俟タス帝國ハ極東就中支
那ニ関シ事實上最モ痛切ナル利害ヲ有スルカ故ニ出来
得ル限り之ヲ認メシムルノ方針ヲ以テ會議ニ臨ムコト
必要ナリト思考ス

三、軍備制限問題ニ関シ本會議ト國際連盟トノ關係如何

兵力ハ國防ニ要スル最少限度以下ニ制限スルコト能ハ
ス其詳細ハ更ニ説明スルコトトナシ決スル所ナクシテ
終ル

五、軍備制限問題ト太平洋及極東問題ト何レヲ先議スル
ヲ有利トスルヤ

軍備制限問題ヲ先議スルヲ得策トスルハ既ニ閣議決定
ノ通ナルモ大勢上其ノ実行困難ナル場合ニハ強テ之ヲ
固執スルノ要ナカルヘク其ノ場合ニハ兩問題ヲ併行シ
テ討議セシムルコトヲ便トスヘシ但シ本問題ハ結局全
權委員ノ折衝ニ委ヌルノ外ナカルヘシト認ム

六、帝國ハ會議中英米兩國ニ對シ中正ノ態度ヲ執ルヘキ
ヤ又ハ英國ト協調ノ態度ヲ執ルヘキヤ

大体ニ於テ中正ノ態度ヲ執ルヲ得策トスヘキモ日英同
盟等ノ關係ニ鑑ミ英國トノ協調ハ念慮ニ置クノ要アル
ヘシト思考ス又個々ノ問題ニ関シ帝國ノ主張ヲ有利ニ
導ク為必要ナル國ト提携スルコトモアルヘク要スルニ
實際ニ臨ミ如何ナル態度ヲ執ルヘキヤハ一ニ全權委員
ノ方寸ニ存ス

七、會議ハ公開ヲ可トスルヤ否ヤ

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

帝国ハ進ンテ公開ニ反対セサルヘキコトヲ方針トシ其ノ決定ハ結局全権ニ一任スルノ外ナシト認ム

(別紙)

會議全局ニ対スル態度

- 一、帝国政府ハ會議ノ成果ヲ期待シテ之ニ臨ムヘキヤ否ヤ
- 二、帝国政府ハ主動的態度ヲ執ルヘキヤ否ヤ
- 三、軍備制限大体ノ程度如何
- 四、軍備制限問題ト太平洋及極東問題ト何レヲ先議スルヲ有利トスルヤ
- 五、帝国ハ會議中英米兩國ニ対シ中正ノ態度ヲ執ルヘキヤ又ハ英國ト協調ノ態度ヲ執ルヘキヤ
- 六、會議ハ公開ヲ可トスルヤ否ヤ

(欄外註記)

八月十七日第一回幹事会ニ於テ作成シタルモノ

原大佐、児玉中佐、堀内、岸田出席

(参考)

第二回會議議事

陸軍委員

- 一、帝国政府ハ會議ノ成果ヲ期待シテ之ニ臨ムヘキヤ否ヤ

決 議

テハ之ニ同意ス

陸軍側ハ陸軍軍備ハ国防ニ要スル最少限ノ兵力以下ニ制限スル能ハスト論ス

- 五、軍備制限問題ト太平洋及極東問題トハ何レヲ先議スルヲ有利トスルヤ

決 議

軍備制限ヲ先トシ他ハ後トスル如ク會議ヲ指導ス然レドモ必スシモ之ヲ固執スルモノニ非ス

- 六、帝国ハ會議中英米兩國ニ対シ中正ノ態度ヲ執ルヘキヤ又ハ英國ト協調ノ態度ヲ執ルヘキヤ

決 議

中正ノ態度ヲ執ルヘキモ英國トハ從來ノ交誼ヲ重シスヘキハ勿論ナリ又個々ノ問題ニ関シテハ帝國ノ主張ヲ有利ニ導ク為メ必要ナル國ト提携スル事アルヘシ要スルニ實際ニ臨ミ如何ナル態度ヲ執ルヘキヤハ一ニ全權委員ノ方寸ニ委ス

- 七、會議ハ公開ヲ可トスルヤ否ヤ

決 議

大勢ニ順応ス但シ帝國ハ反対ノ態度ヲ執ラス

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

二二四

内閣ノ方針通り會議ノ成果ヲ期待シ誠意ヲ以テ之ニ臨ミ讓歩スヘキ点ハ快ク之ヲ讓ルヘシ、但シ其讓歩シ得サル件ハ飽ク迄之ヲ固守スヘキハ勿論トス

- 二、帝国政府ハ主動的態度ヲ執ルヘキヤ否ヤ

決 議

- (イ) 帝国ハ主動的態度ニ出ツルヲ要ス
- (ロ) 予備交渉ニ於テ帝國ノ主張セル議題等ノ決定ニ失敗セル場合ニ於テモ帝國ハ依然會議ニ参列ス此レ予備交渉ヲ以テ参列ノ有無ノ条件トセサリシ事ニヨリ明カナリ

- 三、軍備制限ニ関シ本會議ト國際連盟トノ關係如何

決 議

國際連盟ヲ輕視シ之ヲ度外視スルコト無シ、即チ國際連盟ニ対スル態度ト同様ナルヘキモ、若シ異ル態度ヲ執ルヲ必要ト認メタル場合ニハ異リタル態度ヲ執ルヘシ從來政府ノ連盟委員ニ与ヘタル訓令ハ将来トモ伸縮自在ナリ

- 四、軍備制限大体ノ程度如何

決スル所無シ

海軍側ハ軍備ハ相對的ナルヲ以テ相對的ニ制限スルニ於

(三)

華府會議準備打合会第三回記事

- 第一、大正十年八月二十日午後一時築地水交社ニ於テ開会ス宇佐川海軍大佐新ニ加ハリ又八角海軍大佐臨時参加ス其他ノ出席者前回ニ同シ

- 第二、議題第三「會議ノ議題ヨリ除外方ヲ主張スヘキ事項」(別紙甲号)ヲ一括シテ審議ス

先ツ外務次官ヨリ別紙列記ノ六問題ハ會議ノ紛糾ヲ避クル為之ヲ議題ヨリ除外シ度キ考ナルモ右除外ハ帝國政府ノ會議参加条件ニ非サルカ故ニ議題決定ノ際万一我主張ヲ容レラレサルコトアリトスルモ之カ為参加ヲ拒絶スルノ趣旨ニハ非ス又是等諸問題ハ我方ヨリ進テ其除外方ヲ主張セムトスルモノニハ非スシテ他ヨリ提議アラハ之ニ反対セムトスル次第ナルカ米國側トノ交渉順序等ハ駐米大使ニ一任シ度キ意向ナル旨ヲ説明シ尙(一)山東問題(四)西比利亞撤兵問題及(六)「ヤップ」問題ハ可成會議開会前ニ解決ヲ見ル様夫々必要ナル措置ヲ執リツ、アルコトヲ付言ス

陸軍ハ右六問題ノ除外ヲ極力主張セラレタシト希望シ就

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (一)

中(五) 薩哈噠州占領問題ニ関シテハ極東露領領土權尊重ノ議起ル場合ニハ大ニ我方ノ奮闘ヲ必要トスヘク予想セラル、処陸軍トシテハ特ニ同問題ヲ重要視スル旨ヲ述フ

海軍ハ可成是等諸問題ノ除外ヲ希望スルモ仮令我主張ヲ貫徹シ得サルカ如キ場合ニ於テモ直ニ會議ヨリ脱退スルニハ及ハサルヘク条件次第ニテ協議ノ余地アルヘシト思考ス而シテ若シ国策上膠州灣及関東州ノ還附ヲ必要トスル場合ニハ青島及旅順兩港ニ防備ヲ施サ、ルハ勿論該地域内海面ヲ軍港トセサルコトヲ条件トスル限り海軍トシテ異存ナシ次ニ西比利亞撤兵問題ニ関シテハ浦潮ヲ商港トシテ開放スルコトヲ条件トナシタク又薩哈噠州占領ハ尼港事件ニ伴フ一時的措置ナルカ故ニ議題ノ範圍外ニ置クコト、シタシトノ意見ヲ開陳ス

尚外務次官ヨリ帝国ヨリ進テ提唱スヘキ問題ニ関シテハ各個ノ場合ニ就キ事情ノ許ス限り關係当局ト協議スル積ナリト述フ

第三、議題第二「軍備制限問題」(別紙乙号)ハ一括シテ陸海軍主任官ヨリ成ル特別委員ニ之ヲ付託シ審議ノ結果

四、徴兵制度撤廃問題

五、航空兵力制限問題

六、潜水艦廃止問題

七、毒瓦斯使用、空中爆撃等ノ禁止問題

(四)

華府會議準備打合会第四回記事

第一、大正十年八月三十日午後一時築地水交社ニ於テ開会ス

松平欧米局長、菅野中将欠席、井関砲兵大尉新タニ加ハル其ノ他ノ出席者ハ前回ニ同シ

第二、軍備制限問題ニ関シ特別委員ノ作成ニ係ル別紙決議案ヲ審議ス其ノ大要左ノ如シ

一、太平洋諸島防備撤廃問題(陸、海軍共通)

平和維持ノ見地ヨリ進ンテ撤廃若ハ制限ヲ提議シ少クモ現状維持ノ程度ニ協定ヲ成立セシムルニ努ム

二、軍備制限ノ実行の方法ニ関スル対案

第三議題ニ自然含有セラレ部分的ニ研究セラル、カ故ニ大体論ヲ為スノ要ナキヲ以テ撤回ス(陸軍)

三、制限ニ際シ帝国ノ保有スヘキ兵力ノ標準如何又帝国

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

ヲ次回会合ニ報告セシムルコトニ決ス
別紙甲号

(第三) 會議ノ議題ヨリ除外方ヲ主張スヘキ事項
(八月十九日外務省側幹事ニ於テ作成セルモノ)

一、山東問題

二、所謂二十一箇条問題

三、南滿洲諸鉄道ノ「ステータス」ニ関スル問題

四、西比利亞撤兵問題

五、薩哈噠州占領問題

六、「ヤップ」問題

別紙乙号

(第二) 軍備制限問題

(八月十七日三省幹事協議ノ上作成セルモノ)

一、太平洋諸島防備撤廃問題

二、軍備制限ノ実行の方法ニ関スル対案

三、制限ニ際シ帝国ノ保有スヘキ兵力ノ標準如何又帝国ハ軍備制限ノ結果国防上他ノ列強ニ対シ劣勢ノ地位ニ立ツカ如キコトナル場合ニハ右国防上ノ欠陥ニ対シ特ニ何等カ保障ノ方策ヲ講スヘキヤ

ハ軍備制限ノ結果国防上他ノ列強ニ対シ劣勢ノ地位ニ立ツカ如キコト、ナル場合ニハ右国防ノ欠陥ニ対シ何等カ保障ノ方策ヲ講スヘキヤ(陸、海軍共通)

議題中後段「又帝国ハ、、、、」以下ハ直接軍事ニ關係ナキカ故ニ撤回ス(海軍)

海軍ニ就テハ字句ヲ修正シ「海軍兵力ニ関シテハ大体八八艦隊ヲ標準トスルモ必スシモ既定計画ヲ固執スルコトナク情況ニ応シ英米ト適當ノ割合ヲ保持スル限り八八艦隊以内ヲ以テ制限協定ニ応ス」ト改ム(海軍)

陸軍ノ兵力ニ関シテハ「既定計画ヲ固執スルコトナキ」主旨ニ於テハ海軍ト同一ナルモ若干字句ノ修正ヲナシテ次回ニ提出スルコトトス(陸軍)

四、徴兵制度撤廃問題(陸、海軍共通)

帝国ノ徴兵制度ハ各国ノ態度如何ニ拘ラス帝国ノ国情上之ヲ撤廃スルコト能ハス其ノ対外理由ハ目下陸軍省ニ於テ起草中ノモノ脱稿次第配付スルモ大体國際連盟ニ説明セシモノニ同シ

五、航空兵力制限問題(陸、海軍共通)

制限ニ同意ス其ノ方法ハ経費、人員、機数及機ノ能力等何レニ依ルヘキヤハ更ニ研究ス

六、潜水艦廃止問題(海軍)

潜水艦ハ帝国国防上必須ノモノタルヲ以テ之カ廃止ニ反対ス又潜水艦戦時使用ニ関スル国際法規制定ニハ異議ナシ

七、毒瓦斯使用、空中爆撃等ノ禁止問題(陸、海軍共通)

人道上ノ見地ヨリ毒瓦斯ノ使用ニ反対ス但シ會議ノ大勢之ヲ許ササル場合ニハ適宜ノ措置ヲ執ル
無防禦ノ住民地ニ対スル空中攻撃ニハ反対ヲ主張ス其ノ他ハ更ニ進テ研究ヲ重ヌ

第三、華府會議ニ関スル新聞通信ノ取締ニ付陸軍次官ヨリ左ノ提議アリ一同之ニ賛成ス

一、本打合せノ内容カ迅速且比較的正確ニ新聞紙上ニ表ハルルハ遺憾ニ堪ヘス将来各員ハ一層機密ノ保持ニ留意スルコト

二、華府會議ニ関スル国内ノ一般輿論ヲ統一善導スルハ国策上緊要ナルヲ以テ之カ為ニ適當ノ方法ヲ講セラレシコトヲ希望シ右希望ヲ外務次官ヨリ外務大臣ニ上申

何レニ依ルヘキヤハ更ニ研究ス(共)

五、潜水艦廃止問題

潜水艦ハ帝国国防上必須ノモノタルヲ以テ之カ廃止ニ反対ス(海)

六、毒瓦斯使用、空中爆撃等ノ禁止問題

人道上ノ見地ヨリ毒瓦斯ノ使用ニ反対ス但シ會議ノ大勢之ヲ許ササル場合ニハ適宜ノ措置ヲ執ル
無防禦ノ住民地ニ対スル空中攻撃ニハ反対ヲ主張ス其ノ他ハ更ニ進テ研究ヲ重ヌ(共)

(五)

華府會議準備打合せ第五回記事

第一、大正十年九月十五日午後二時半築地水交社ニ於テ開会ス菅野中将欠席、上田大佐田代少佐参加、其他出席者異動ナシ

第二、前回審議ノ際議了ニ至ラサリシ陸軍兵力標準問題ニ関シ別紙甲号陸軍側修正案ヲ付議ス同案ノ趣旨ニ付金谷少将ヨリ説明アリタルカ「既定計画」ノ字句ニ関シ海軍側ニ異論アリ即チ陸軍二十五師団計画ハ未タ予算上ニ現ハレタルモノニアラサルモ反之海軍計画ハ既ニ予算ノ協

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯(二)

シ政府ノ考量ヲ仰クコト

(別紙)

特別委員決議案

大正十年八月二十五日

一、太平洋諸島防備撤廃問題

平和維持ノ見地ヨリ進シテ撤廃若クハ制限ヲ提議シ少クモ現状維持ノ程度ニ協定ヲ成立セシムルニ努ム(共)

二、制限ニ際シ帝国ノ保有スヘキ兵力ノ標準如何

陸軍兵力ニ関シテハ大体国際連盟陸軍代表ニ与ヘタル訓令ノ主旨ヲ尊重シ既定計画ヲ廢棄シテ概ネ現状ニ制限ス(陸)

海軍兵力ニ関シテハ大体八八艦隊ヲ標準トスルモ必スシモ既定計画ヲ固執スルコトナク情況ニ応シ英米ト適當ノ割合ヲ保持スル限リ八八艦隊以內ヲ以テ制限協定ニ応ス(海)

三、徵兵制度撤廃問題

帝国ノ徵兵制度ハ各国ノ態度如何ニ拘ラス帝国ノ国情上之ヲ撤廃スルコト能ハス(共)

四、航空兵力制限問題

制限ニ同意ス其方法ハ経費、人員、機数及機ノ能力等

贊ヲ経テ現ニ実行中ニ属シ兩者ヲ等シク「既定計画」ト呼フハ妥當ナラストノ理由ニ依リ陸軍修正案維持ノ場合ニハ海軍兵力ノ項中「既定計画」ヲ「現ニ実行中ノ本計画」ト改メ度シトノ提議出ツ又陸軍ニ於テ現在兵数以下ノ制限協定ニ応シ難キ事由ニ就キ二三ノ質問ニ対シ陸軍側ヨリ説明アリタル末結局陸軍修正案ノ趣旨ハ帝国全權ニ於テ陸軍軍備制限ニ主義上賛成ナルコトヲ言明スルニ支障ナキモノナリトノ了解ノ下ニ同案ノ字句ヲ其儘トナシ海軍兵力ノ項ハ前記修正提議ノ通り改ムルコトニ決定ス確定案別紙乙号ノ如シ

第三、華府會議議題米國試案ニ関スル帝国對案ハ外務省ニ於テ作成ノ上次回會合ニ付議スルコトナル

第四、前回議ニ上リタル輿論指導方法ニ関シ更ニ急速実行方ノ希望出ツ

別紙甲号

二、制限ニ際シ帝国ノ保有スヘキ兵力ノ標準如何

陸軍兵力ニ関シテハ大体既定計画タル二十五師団ヲ標準トスルモ必スシモ之ヲ固執スルコトナク情況ニ依リテハ概ネ現在程度ノ兵数迄ニ制限協定ニ応ス

二二九

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

別紙乙号

二、制限ニ際シ帝国ノ保有スヘキ兵力ノ標準如何
陸軍兵力ニ関シテハ大体既定計画タル二十五師団ヲ標準トスルモ必スシモ之ヲ固執スルコトナク情況ニ依リテハ概ネ現在程度ノ兵数迄ニ制限協定ニ応ス
海軍兵力ニ関シテハ大体八八艦隊ヲ標準トスルモ必スシモ現ニ実行中ノ本計画ヲ固執スルコトナク情況ニ応シ英米ト適當ノ割合ヲ保持スル限り八八艦隊以内ヲ以テ制限協定ニ応ス

(内)

華府會議準備打合会第六回記事

第一、大正十年九月二十六日午後二時築地水交社ニ於テ開
会ス出席者例ノ如ク外ニ森田砲兵中佐臨時参加ス
第二、華府會議議題米國試案ニ対スル別紙日本側対案ニ付
壇原外務次官説明ス田中陸軍少将ヨリ各国民待遇問題ヲ
提議スル以上ハ人口調節問題ヲモ加ヘテハ如何トノ意見
出テタルカ之ニ対シ外務次官ハ一個ノ意見トシテ(一)
本問題ハ結局移民問題ニ帰着スヘキ処移民ノ自由ハ相互
的ニ認ムルノ外ナク其結果外国労働者ノ日本入国ヲモ認

(別紙)

米國試案ニ対スル対案

米國試案中「太平洋及極東問題」ノ題目ノ下ニ「太平洋ニ
関スル諸問題」トシテ左ノ通追加ス

一、適用セラルヘキ諸主義

二、適用

三、主題

- (イ) 列国領土及屬地ノ相互尊重
- (ロ) 門戸開放―商工業上ノ機会均等主義
- (ハ) 天然資源ノ利用及開発
- (ニ) 各国民ノ待遇問題

(付記二)

訓令ノ形式手続

大正十年九月十二日華府會議準備打合会三省幹事会合作成ス

訓令ノ形式手続

一、全権委員ニ対スル訓令中軍事上ノ事項ニ関シテハ主務
大臣ニ於テ審議立案シ外務大臣連署ノ上閣議其ノ他必要
ノ手続ヲ執ルコト

二、右訓令ハ主務大臣及外務大臣連署ノ上外務大臣ヨリ全

一 會議開催ニ至ルマデノ経緯 (二)

二三〇

メサルヘカラサルニ至ルヘク(二)一度本問題ヲ提起ス
ルトキハ必スヤ會議参加国ノ多数ヲ敵トシテ戦ハサルヘ
カラサル等ノ不利アルニ顧ミ之カ提議ハ見合ハスヲ得策
トスヘシト答弁セリ次テ堀内海軍省軍務局長ヨリ太平洋
諸島防備軽減問題ヲ追加シタク右ハ必スシモ軍備制限ノ
ミニ関スル問題トセス寧ロ主義政策ノ問題トシテ之ヲ提
出シ軍備制限ノ前提タラシメムトスル主旨ナルカ故ニ形
式トシテハ我対案(イ)「列国領土及屬地ノ相互尊重」ノ下
括弧内ニ「太平洋諸島防備軽減問題ヲ含ム」ト付記スルモ
一策ナラント提議ス之ニ対シテハ斯ノ如ク本問題ヲ予メ
議題トシテ我方ヨリ提出スルトキハ或ハ当初ヨリ米國側
ノ反対ヲ招キ又不利ナル宣伝ヲ誘起シ却テ開会後我方ヨ
リ堂々主張ヲナスニ妨ケトナルノ虞ナキニ非ス軍備制限
問題ニ就テハ範圍ノ限定ナキ次第ナルカ故ニ恐ラク會議
中本問題提出ノ機会アルヘシトノ意見出テ結局外務省側
ニ於テ更ニ研究ノ上場合ニ由リテハ在米帝國大使ニ訓令
シテ米國側ノ意嚮ヲ探ラシムルモ可ナルヘシト云フニ略
一致ス別紙対案中其他ノ点ニ就テハ別ニ異論ヲ生セス

権委員ニ之ヲ送達スルコト

三、會議ニ関スル訓令、請訓及報告等ハ關係三省間ニ於テ
遲滞無ク相互ニ之ヲ通報スルコト

四、遣米委員ニ於テ主務大臣トノ間ニ於テ會議ニ関シ往復
セル通信ハ遲滞無ク相互ニ通報スルコト

(欄外註記)

右ノ通修正致度希望ニ有之候

九月二十日

原大佐(印)

(貼り札一)

本打合せ事項ハ単ニ訓令作製上ノ事務手続ヲ示スモノ
ニシテ軍部ノ主務タル統帥又ハ兵額決定等ノ基礎問題ニ
就テ外務大臣ノ連帶ヲ為スヘキ事ヲ規定スルモノニアラ
サル意トノ了解ニ就キ十分ニ明瞭ニ為シ置クノ手段ヲ取
ラレタシ

參謀本部 (森田印)

(貼り札二)

全権ト主務大臣トノ間ニ會議ニ関シ往復セル通信ハ速ニ
之ヲ陸海軍委員ニ通報スルコトノ一項ヲ加ヘラレタシ

參謀本部

二三一

(付記三)

堀内謙介外務省欧米局第二課長記 陸軍兵力制限問題ニ就テ

十月一日

堀内記

陸軍兵力制限問題ニ就テ

一、三省會議ノ決議ニ拠レハ「陸軍兵力ニ関シテハ大体既定計画タル二十五師団ヲ標準トスルモ必スシモ之ヲ固執スルコトナク情況ニ依リテハ概ネ現在程度ノ兵数迄ニ制限協定ニ応ス」トアリ

二、然ルニ九月三十日陸軍省ヨリ接受シタル訓令案ニハ「曩ニ平時兵力四十万ヲ以テ国防上必要ナル陸軍兵力トシ之カ充実ニ努メツツアリシカ……現在実行中ノ兵力即チ約三十二万ニ制限スルニ躊躇セス」トアリ

三、右變更ノ事情ニ就キ児玉中佐ノ説明スル所左ノ如シ
「過日陸軍大臣ニ於テ首相及海軍大臣ト会见ノ上帝國陸軍ノ兵力問題ハ師団数ヨリモ寧ロ兵数ニヨリ考量決定スルヲ可トスヘシト告ケタルニ兩大臣トモ之ニ賛同シ且首相ヨリ制限ノ最低限ハ現在兵数(約二十九万六千)ニ定メ置キテモ訓令中ニハ三十二万ニナシ置ク方可ナラント注意アリタル趣ニテ陸軍大臣自ラ筆ヲ取り本件兵数ノ点

ヲ修正セラレタリ」云々

四、原海軍大佐ノ談ニ拠レハ海軍大臣ハ兵力表示ノ方式ヲ兵数ニ依ルコトニハ同意シタルモ三十二万云々ノ点ハ一切関知セスト云フ

五、尚児玉中佐ノ談ニ拠レハ訓令中ニハ三十二万ト記スルモ陸軍ニ於テ夫レ以下ニ現在兵数迄制限協定ニ応スルノ覚悟アルニ就テハ閣議ノ席上ニ於テ陸軍大臣ヨリ閣僚ノ諒解ヲ求ムル筈ナリト言ヘリ

(追記) 十月三日児玉中佐電話要領

一、陸軍大臣ハ閣議及外交調査会ニ於テ華府會議ノ情勢ニ由リテハ陸軍兵力ヲ現在数(約二十九万六千)迄制限協定ニ応スルノ覚悟アル旨ヲ言明セラルル筈ナリ
二、但シ訓令ノ文面ニ於テハ國際連盟總會帝國代表ニ對スル訓令ノ趣旨トノ一致ヲ保ツ為メ今回モ三十二万ニ止メ置クコトトナスヘシ

177

10年10月20日(発) 内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

ワシントン會議日本全權ニ對スル訓令交付ノ件

第五三五号

往電第四六〇号ニ関シ

華盛頓會議帝國全權ニ對スル訓令ハ廟議決定ノ上十四日三全權連名宛ニテ加藤全權ニ交付セリ右訓令ハ第一一般方針第二軍備制限問題第三太平洋問題第四支那問題第五西比利亞問題ノ五部ヨリ成リ長文ナルニ付一々玆ニ電報スルコト

ハ見合スヘキモ中第一一般方針中主要ナル事項及第二軍備問題要点夫々別電甲号及乙号ノ通貫官御含迄ニ申進ス尚全權ニ對スル御委任狀ハ訓令ト共ニ加藤全權携帯セリ

編註 別電甲号、乙号省略